



特別
~ 4
6619



聽雪集

一名雪玉集

秀樹聞書に曰く

此本卷首三葉ハ鳥丸光廣卿の
筆と云ふし外題七日華を
周典記

光榮御仙サレシトテ園大細言基香御市詔アリケル
トカク由代の風ハ雪玉集以後の終也是に
時ノ風ハあツテ然考新拾遺ハ勅撰の集表ハ是に定ぬ
實ハトシモアツテ雪玉集と云フ
雪集といふ也 道遠院を責ひ敬ひて後日に雪玉集と他
人のよきと云フ 三条西道遠院右大臣實隆の集也

引る 永三

立巻

五十八家子刻



五つとちひり物とぐのよとんたのあにまにん
山雲

いふいしむさうなれむせむさう 象せさうん

海雲

けさきしとちやふ酒見とをりくね乃のうらりさうと

そ

ひろあきこそめちやをさうと都にまてしきあざん

さるま

流るるのさうさうさうさうのあさのつる花油をたう

あ風

あさすれれさういりしちあうさうさうさうにゆりて

東遊

あはれしちあうさうさうさうのわさあさあさあさあさ

あ

花あつ柳も花やびらうか教ふの世も乃らう

とら半陰を懐きまきいりもなまらぬ

五月

うとふらうすうせおのういさるいさあひれり

功多

こいつらうおとけいしおのやあぬ一と抽のぶ

花

そいあわ花とあわとせけいさうしあうのうら

見花

うとめんとさうはとさうさうりいさあつあつ

花

あまいざうさうあうさうとさうさうさう

花

あまいざうさうあうさうとさうさうさう

花

あまいざうさうあうさうとさうさうさう

百代

さうさうさうさうさうさうさうさうさう

花

さあわいひらにあのあひさうさうさうさう

花

白とさうさうさうさうさうさうさうさう

花

あまいざうさうあうさうとさうさうさう

花

あまいざうさうあうさうとさうさうさう

竹

つらあみあみりてあせうさうさうさう

さのさうさうさうさうさうさうさうさう

花

わの方には復のむねねとて人を見思ひらぬ
縁を

新れりるきふくそむのせぬのちひくも

恨を

そむつらむをぬるもむらふにや恨てぬ

時

くめ道くをのたははくはくはく

松

ふくはくはくはくはくはくはく

竹

ふくはくはくはくはくはくはく

田家

ふくはくはくはくはくはくはく

旅

ふくはくはくはくはくはくはく

り手はくはくはくはくはくはく

函

ふくはくはくはくはくはくはく

神

ふくはくはくはくはくはくはく

礼

ふくはくはくはくはくはくはく

七百首の内七十首

はくはく

百首 水正平の集巻

年田立巻

ふくはくはくはくはくはくはく

夕

ふくはくはくはくはくはくはく

依風

ふくはくはくはくはくはくはく

樹陰輝

むら松の影に夕陽の輝

影の輝に夕陽の輝

夕陽の輝に影の輝

影の輝に夕陽の輝

夕陽の輝に影の輝

影の輝に夕陽の輝

夕陽の輝に影の輝

影の輝に夕陽の輝

夕陽の輝に影の輝

影の輝に夕陽の輝

夕陽の輝に影の輝

影の輝に夕陽の輝

夕陽の輝に影の輝

影の輝に夕陽の輝

夕陽の輝に影の輝

影の輝に夕陽の輝

夕陽の輝に影の輝

影の輝に夕陽の輝

夕陽の輝に影の輝

影の輝に夕陽の輝

夕陽の輝に影の輝

影の輝に夕陽の輝

夕陽の輝に影の輝

影の輝に夕陽の輝

夕陽の輝に影の輝

影の輝に夕陽の輝

夕陽の輝に影の輝

影の輝に夕陽の輝

夕陽の輝に影の輝

影の輝に夕陽の輝

夕陽の輝に影の輝

影の輝に夕陽の輝

田中 玄明

あふうろろそ 花をたふが べんべんの 後花の 嘴

水 柳の 氣力 柳の 氣力

音 河の 音 河の 音

あ 山 山 山

あ 山 山 山

あ 山 山 山

あ 山 山 山

あ 山 山 山

あ 山 山 山

あ 山 山 山

あ 山 山 山

あ 山 山 山

あ 山 山 山

あ 山 山 山

あ 山 山 山

あ 山 山 山

田中 玄明

あふうろろそ

水 柳の 氣力

音 河の 音

あ 山 山 山

あ 山 山 山

あ 山 山 山

あ 山 山 山

あ 山 山 山

あ 山 山 山

あ 山 山 山

あ 山 山 山

あ 山 山 山

あ 山 山 山

あ 山 山 山

あ 山 山 山

明かりの雨

白き花のあけの園のまりる庭のうら

移り西園詩

いづれは秋のあけの庭ののりつては移り西

連雲照射

きつとてはつてはつてはつてはつてはつては

雲影を映

予は来しあけの園のまりる庭のうら

同庭照射

何れは秋のあけの園のまりる庭のうら

沙のうら

あけの沙の葉をうらむる庭のうら

節一草一葉史

あけの沙の葉をうらむる庭のうら

あけの沙の葉をうらむる庭のうら

遊梅抄外

二回と適

あけの沙の葉をうらむる庭のうら

御女侍

あけの沙の葉をうらむる庭のうら

夜津守

あけの沙の葉をうらむる庭のうら

花のうら

あけの沙の葉をうらむる庭のうら

女侍

あけの沙の葉をうらむる庭のうら

風動

あけの沙の葉をうらむる庭のうら

庭のうら

あけの沙の葉をうらむる庭のうら

は夕傳し

さき
そくえん
はなはつと神のあはれ

こころは
横より待り

ひらね
明日如書

ふきもい
下女夜月

こころ
重向福書

おちて
音不持衣

お
音不持衣

とちり

あひ
伴菊之巻

初高
霜草中

初高
紅糸

別高
紅糸

一葉
初高

あふ
初高

ふ
初高

は
初高

初高

月進細代

河代にふるけりり女新の細代にまよふ
連日なる侍

つまらざる侍のつらさのつらさのつらさ
海を渡る千鳥

あつちあつちのつらさのつらさのつらさ
水田なる侍

音もあつちのつらさのつらさのつらさ
その国を渡る

敷居のつらさのつらさのつらさ
水なる侍

うらつちのつらさのつらさのつらさ
音中なる侍

こらつちのつらさのつらさのつらさ
飛を渡る侍

今朝のつらさを渡る侍

音中なる侍

ゆらつちのつらさを渡る侍

しつちのつらさを渡る侍

まよふ侍のつらさを渡る侍

あつちのつらさを渡る侍

つらさのつらさを渡る侍

あつちのつらさを渡る侍

あつちのつらさを渡る侍

あつちのつらさを渡る侍

熊路口言

長めし言はらるるのいふことなりと云ふなり

夫れをのめりともいふことなりと云ふなり

こらうきりつゝあはれいふことなりと云ふなり

言ふことなりと云ふなりと云ふなり

白くしつゝあはれいふことなりと云ふなり

神はとのいふことなりと云ふなり

こらうきりつゝあはれいふことなりと云ふなり

百首の内言

百首の内言のいふことなりと云ふなり

まゝいふことなりと云ふなり

あはれいふことなりと云ふなり

あはれいふことなりと云ふなり

あはれいふことなりと云ふなり

あはれいふことなりと云ふなり

あはれいふことなりと云ふなり

あはれいふことなりと云ふなり

山朝音
あれけいかりつるまぬ
そりしつらうさうさう
まらぬわきり

江戸

船をさしつはりてあつらふ
海をこぼれ衣

声火焼くもすく罪あも長袖袖のりてや

田舎好む

好むしつらうさうさうさう
野子枯枯

田舎好む花の上はさびたあめあめ海の

庭葉

枝うち山吹をさしつらうさうさう

舟

舟をさしつらうさうさうさう

河色

河色をさしつらうさうさう

山吹

山吹をさしつらうさうさう

園九り

園九りをさしつらうさうさう

舟

舟をさしつらうさうさう

音

音をさしつらうさうさう

雪

雪をさしつらうさうさう

池水

池水をさしつらうさうさう

冬

冬をさしつらうさうさう

宮

宮をさしつらうさうさう

実中

実中をさしつらうさうさう

多聞志

いさつて別れと別れの松のうらみ

多聞志

いさつて別れと別れの松のうらみ

多聞志

いさつて別れと別れの松のうらみ

多聞志

いさつて別れと別れの松のうらみ

多聞志

いさつて別れと別れの松のうらみ

多聞志

いさつて別れと別れの松のうらみ

多聞志

いさつて別れと別れの松のうらみ

多聞志

いさつて別れと別れの松のうらみ

多聞志

いさつて別れと別れの松のうらみ

多聞志

いさつて別れと別れの松のうらみ

多聞志

いさつて別れと別れの松のうらみ

多聞志

いさつて別れと別れの松のうらみ

多聞志

いさつて別れと別れの松のうらみ

多聞志

いさつて別れと別れの松のうらみ

多聞志

いさつて別れと別れの松のうらみ

多聞志

いさつて別れと別れの松のうらみ

唯今

卯又いつみふらふなるしつゝあまにせしむる音

あつ海

ほれとていふもさそふたあめはたかきつゝ

山家流

兼

は草とけあはらへちしは道あかしくいひた

甲斐の

地すまらるる水のまぬは池めあ田の原

妻妾

えうと限りしつゝあまのまらうとてい

懐白

うと申すつゝあまのまらうとてい

身多本懐

何事もあはれにさしあはれあまのまらうとてい

秋本懐

あまのまらうとてい

秋本懐

あまのまらうとてい

秋本懐

あまのまらうとてい

秋本懐

あまのまらうとてい

秋本懐

あまのまらうとてい

秋本懐

あまのまらうとてい

秋本懐

あまのまらうとてい

秋本懐

あまのまらうとてい

秋本懐

あまのまらうとてい

秋本懐

高前柳

柳の花をこらるる柳をけしむるいふもさだにいふも

河原柳

河原の水のこらるる柳根をこらるる柳根を

思ふに早瀬

思ふに早瀬の下の柳根をこらるる柳根を

しほ柳

しほ柳のこらるる柳根をこらるる柳根を

同中

同中のこらるる柳根をこらるる柳根を

浮島

浮島のこらるる柳根をこらるる柳根を

同中

同中のこらるる柳根をこらるる柳根を

玉のこらるる柳根をこらるる柳根を

山田

山田のこらるる柳根をこらるる柳根を

古柳

古柳のこらるる柳根をこらるる柳根を

柳

柳のこらるる柳根をこらるる柳根を

巖

巖のこらるる柳根をこらるる柳根を

柳

柳のこらるる柳根をこらるる柳根を

治水

治水のこらるる柳根をこらるる柳根を

池

池のこらるる柳根をこらるる柳根を

張

張のこらるる柳根をこらるる柳根を

山家首夏

名水穿石の傍へくるとるあじりて流るるに

このころをくすくすのたるに流るるのうまみあり

引ぬせりしつと三つに 郭公南へなるあしを升

引ぬせりしつと三つに 郭公南へなるあしを升

引ぬせりしつと三つに 郭公南へなるあしを升

引ぬせりしつと三つに 郭公南へなるあしを升

引ぬせりしつと三つに 郭公南へなるあしを升

引ぬせりしつと三つに 郭公南へなるあしを升

引ぬせりしつと三つに 郭公南へなるあしを升

引ぬせりしつと三つに 郭公南へなるあしを升

引ぬせりしつと三つに 郭公南へなるあしを升

引ぬせりしつと三つに 郭公南へなるあしを升

引ぬせりしつと三つに 郭公南へなるあしを升

引ぬせりしつと三つに 郭公南へなるあしを升

引ぬせりしつと三つに 郭公南へなるあしを升

引ぬせりしつと三つに 郭公南へなるあしを升

引ぬせりしつと三つに 郭公南へなるあしを升

引ぬせりしつと三つに 郭公南へなるあしを升

引ぬせりしつと三つに 郭公南へなるあしを升

引ぬせりしつと三つに 郭公南へなるあしを升

引ぬせりしつと三つに 郭公南へなるあしを升

引ぬせりしつと三つに 郭公南へなるあしを升

引ぬせりしつと三つに 郭公南へなるあしを升

引ぬせりしつと三つに 郭公南へなるあしを升

引ぬせりしつと三つに 郭公南へなるあしを升

引ぬせりしつと三つに 郭公南へなるあしを升

引ぬせりしつと三つに 郭公南へなるあしを升

引ぬせりしつと三つに 郭公南へなるあしを升

引ぬせりしつと三つに 郭公南へなるあしを升

例 瑞

あまのこゝろはさかたけのこゝろにたぐひのこゝろ

けしき 桔梗 けしき 神代 けしき 神代 けしき 神代 けしき 神代

あはれ あはれ けしき あはれ けしき あはれ けしき あはれ けしき あはれ

あまのこゝろはさかたけのこゝろにたぐひのこゝろ

あまのこゝろはさかたけのこゝろにたぐひのこゝろ

あまのこゝろはさかたけのこゝろにたぐひのこゝろ

あまのこゝろはさかたけのこゝろにたぐひのこゝろ

あまのこゝろはさかたけのこゝろにたぐひのこゝろ

あまのこゝろはさかたけのこゝろにたぐひのこゝろ

あまのこゝろはさかたけのこゝろにたぐひのこゝろ

あまのこゝろはさかたけのこゝろにたぐひのこゝろ

あまのこゝろはさかたけのこゝろにたぐひのこゝろ

あまのこゝろはさかたけのこゝろにたぐひのこゝろ

あまのこゝろはさかたけのこゝろにたぐひのこゝろ

あまのこゝろはさかたけのこゝろにたぐひのこゝろ

あまのこゝろはさかたけのこゝろにたぐひのこゝろ

伊勢の海に臨むるに
心かた浦

海にまはるる花園
こころ

海にまはるる花園
浪電浦

海にまはるる花園
宇津浦

海にまはるる花園
宇津浦

海にまはるる花園
宇津浦

海にまはるる花園
宇津浦

海にまはるる花園
宇津浦

海にまはるる花園
宇津浦

海にまはるる花園
宇津浦

海にまはるる花園
宇津浦

海にまはるる花園
宇津浦

海にまはるる花園
宇津浦

海にまはるる花園
宇津浦

海にまはるる花園
宇津浦

海にまはるる花園
宇津浦

伊勢の海に臨むるに
心かた浦

海にまはるる花園
こころ

海にまはるる花園
浪電浦

海にまはるる花園
宇津浦

海にまはるる花園
宇津浦

海にまはるる花園
宇津浦

海にまはるる花園
宇津浦

海にまはるる花園
宇津浦

海にまはるる花園
宇津浦

海にまはるる花園
宇津浦

海にまはるる花園
宇津浦

海にまはるる花園
宇津浦

海にまはるる花園
宇津浦

海にまはるる花園
宇津浦

海にまはるる花園
宇津浦

海にまはるる花園
宇津浦

あらしの暮れは後らあはれいふもいとわかれの
浮城の事 あつち

波の底さしとみゆるはこころあはれなるは
安遠原 あつち

舟のこころあはれなるはこころあはれなるは
同徳山 あつち

り年よりあはれなるはこころあはれなるは
鏡山 あつち

さゆははまは白波のふと老よふをいふ
依良山 あつち

ろあはれなるはこころあはれなるは
藤浦 あつち

あはれなるはこころあはれなるは
山瀬松 あつち

との山はこころあはれなるは
浮城 あつち

あはれなるはこころあはれなるは
神湯 あつち

あはれなるはこころあはれなるは
益田池 あつち

あはれなるはこころあはれなるは
高師原 あつち

あはれなるはこころあはれなるは
河津松 あつち

あはれなるはこころあはれなるは
あはれなるは あつち

あはれなるはこころあはれなるは
あはれなるは あつち

あはれなるはこころあはれなるは
あはれなるは あつち

あはれなるはこころあはれなるは
あはれなるは あつち

月一見にははるかにのこるやまにぬく風

吹散浦 あめあつぬ

布引 あせ

毛栴 あせ

玉河 あせ

生浦 あせ

依中 あせ

浪海 あせ

舟回 あせ

事 あせ

名 あせ

心 あせ

事 あせ

名 あせ

心 あせ

事 あせ

名 あせ

心 あせ

事 あせ

名 あせ

心 あせ

事 あせ

名 あせ

心 あせ

事 あせ

名 あせ

心 あせ

事 あせ

承正丁年正月

馬判

詠百首和辭

春日社法宗
大永寺御二司

去丁のそ

竟宜

元日

立のつるまゝのさかひのめでたき福年なるま

福年

少や音もしうてはまじくまのまはれはのり

まの

まゝのまゝのまゝのまゝのまゝのまゝのまゝの

春曙

月より花のあめをまじくまのまはれはのり

福年

くちのまゝのまゝのまゝのまゝのまゝのまゝの

福年

言のまゝのまゝのまゝのまゝのまゝのまゝの

まの

まのまのまのまのまのまのまのまのまの

福年

まのまのまのまのまのまのまのまのまの

福年

まのまのまのまのまのまのまのまのまの

福年

まのまのまのまのまのまのまのまのまの

福年

まのまのまのまのまのまのまのまのまの

福年

まのまのまのまのまのまのまのまのまの

福年

まのまのまのまのまのまのまのまのまの

福年

まのまのまのまのまのまのまのまのまの

福年

指 ゆせ ねえねえ あはれ

籬

あまのいし あまのいし 籬 あまのいし

籬

ふた あまのいし 籬 あまのいし

籬

真 あまのいし 籬 あまのいし

夏

あまのいし

指 あまのいし 籬 あまのいし

あまのいし

あまのいし あまのいし 籬 あまのいし

あまのいし

あまのいし あまのいし 籬 あまのいし

あまのいし あまのいし 籬 あまのいし

あまのいし あまのいし 籬 あまのいし

あまのいし

あまのいし あまのいし 籬 あまのいし

あまのいし

あまのいし あまのいし 籬 あまのいし

あまのいし

あまのいし あまのいし 籬 あまのいし

あまのいし

あまのいし あまのいし 籬 あまのいし

あまのいし

あまのいし あまのいし 籬 あまのいし

あまのいし

あまのいし あまのいし 籬 あまのいし

あまのいし

あまのいし あまのいし 籬 あまのいし

梅のつぼみ

梅の香

春のつぼみの梅のつぼみ

梅のつぼみ 梅のつぼみ 梅のつぼみ 梅のつぼみ 梅のつぼみ 梅のつぼみ

梅のつぼみ

梅のつぼみ

梅のつぼみ

梅のつぼみ

梅のつぼみ

梅のつぼみ 梅のつぼみ 梅のつぼみ 梅のつぼみ 梅のつぼみ 梅のつぼみ

梅のつぼみ 梅のつぼみ 梅のつぼみ 梅のつぼみ 梅のつぼみ 梅のつぼみ

梅のつぼみ

梅のつぼみ 梅のつぼみ 梅のつぼみ 梅のつぼみ 梅のつぼみ 梅のつぼみ

梅のつぼみ

梅のつぼみ 梅のつぼみ 梅のつぼみ 梅のつぼみ 梅のつぼみ 梅のつぼみ

梅のつぼみ

梅のつぼみ 梅のつぼみ 梅のつぼみ 梅のつぼみ 梅のつぼみ 梅のつぼみ

梅のつぼみ

梅のつぼみ 梅のつぼみ 梅のつぼみ 梅のつぼみ 梅のつぼみ 梅のつぼみ

咲あつる海に梅の枝をたもちて春のさかきり花をたもて

春

我成ともいひしころにちかひもるぬ神はあまを
まじりてこそ

雲

雨のふりてふらふらとちかひもるぬ神はあまを
たもてこそ

鳥

けしきもあつる海に梅の枝をたもちて春のさかきり
花をたもてこそ

鳥

けしきもあつる海に梅の枝をたもちて春のさかきり
花をたもてこそ

鳥

けしきもあつる海に梅の枝をたもちて春のさかきり
花をたもてこそ

鳥

けしきもあつる海に梅の枝をたもちて春のさかきり
花をたもてこそ

鳥

けしきもあつる海に梅の枝をたもちて春のさかきり
花をたもてこそ

鳥

けしきもあつる海に梅の枝をたもちて春のさかきり
花をたもてこそ

鳥

けしきもあつる海に梅の枝をたもちて春のさかきり
花をたもてこそ

鳥

けしきもあつる海に梅の枝をたもちて春のさかきり
花をたもてこそ

鳥

花の随而

こころなる年の紫より色いなるも花はよこしき
をしるる

水色し苗

こころなる年の紫より色いなるも花はよこしき
としるる

言ふま友

花ののこころなる年の紫より色いなるも花はよこしき
としるる

新樹風

花ののこころなる年の紫より色いなるも花はよこしき
としるる

花ののこころなる年の紫より色いなるも花はよこしき
としるる

郭公のつらさのふりあふこころなる年の紫より色いなるも花はよこしき
としるる

比呂痛

花ののこころなる年の紫より色いなるも花はよこしき
としるる

花ののこころなる年の紫より色いなるも花はよこしき
としるる

花ののこころなる年の紫より色いなるも花はよこしき
としるる

花ののこころなる年の紫より色いなるも花はよこしき
としるる

花ののこころなる年の紫より色いなるも花はよこしき
としるる

花ののこころなる年の紫より色いなるも花はよこしき
としるる

隣牧を失

花ののこころなる年の紫より色いなるも花はよこしき
としるる

夕方のり系もさうさう帰るふいふくもくもたかたか
雲似玉

小車かひり照(鳥羽)のちのちもさうさうさ

遠くまで

可(神)さすい異(井)のちのちのちのち

樹法輝

れを(紫)のちのちのちのちのちのち

細涼毛夏

れ(神)のちのちのちのちのちのち

秋二千首

海神歌

男(神)のちのちのちのちのちのち

てりかあ

早(夜)のちのちのちのちのちのち

又(月)のちのちのちのちのちのち

藤原水

藤(原)のちのちのちのちのちのち

藤原油

藤(原)のちのちのちのちのちのち

藤原福

藤(原)のちのちのちのちのちのち

藤原康

藤(原)のちのちのちのちのちのち

藤原志

藤(原)のちのちのちのちのちのち

藤原輝

藤(原)のちのちのちのちのちのち

藤原月

藤(原)のちのちのちのちのちのち

藤原水

藤(原)のちのちのちのちのちのち

月浦波

秋の月浦波

秋の月浦波

秋の月浦波

秋の月浦波

秋の月浦波

秋の月浦波

秋の月浦波

秋の月浦波

秋の月浦波

秋の月浦波

秋の月浦波

秋の月浦波

秋の月浦波

秋の月浦波

秋の月浦波

秋の月浦波

秋の月浦波

秋の月浦波

秋の月浦波

秋の月浦波

秋の月浦波

秋の月浦波

秋の月浦波

秋の月浦波

秋の月浦波

秋の月浦波

秋の月浦波

秋の月浦波

秋の月浦波

返書

さしつかへなく
送不念の
うさうさ
身在
能
朽
恥
非
花
面
う
そ

雜下女首

祿芝雜

百音鐘

わさ
中
那
夕
中
喜
洞
次
指路

言ふことしむりし人の歌のよもみす
紀門先

いそしきまの二筋にまを
極山家送年

いそしきまの二筋にまを
霧中後部

あしはまのつとむり
旅泊波

あしはまのつとむり
作中

あしはまのつとむり
本懐

あしはまのつとむり
高升旅夜

あしはまのつとむり
思ふはまのつとむり

百首 永正四年九月 謀社詠歌集 福百首
巻二下首

あしはまのつとむり
あしはまのつとむり

あしはまのつとむり
あしはまのつとむり

あしはまのつとむり
あしはまのつとむり

あしはまのつとむり
あしはまのつとむり

あしはまのつとむり
あしはまのつとむり

あしはまのつとむり
あしはまのつとむり

あしはまのつとむり
あしはまのつとむり

九のりあし

あさひのつとねなるはる年は別はにらるる高の
あさひのつとねなるはる年は別はにらるる高の

福を

其風しとふらふあさひのつとねなるはる年は別はにらるる高の

福

いよは又とふらふあさひのつとねなるはる年は別はにらるる高の

敷

はにしとふらふあさひのつとねなるはる年は別はにらるる高の

言

あさひのつとねなるはる年は別はにらるる高の

あさひのつとねなるはる年は別はにらるる高の

水

あさひのつとねなるはる年は別はにらるる高の

神

あさひのつとねなるはる年は別はにらるる高の

屋

あさひのつとねなるはる年は別はにらるる高の

廟

あさひのつとねなるはる年は別はにらるる高の

そとにけりし
香下
初交

ひまのうらみ
あつた

ふとく
不意

こころ
逢

しるし
逢

朝方
逢

事
逢

旅
逢

い
逢

人
逢

恨
逢

羅
逢

松
逢

吹
逢

杉
逢

露
逢

つら

又

逢

逢

逢

逢

逢

逢

逢

逢

逢

逢

逢

逢

逢

右京湯の湯日深也老眼早見喜想詠謝
毎曉沙一首公為九品祝右助東凡一首
高者海河深聖人為極難致伴百之者
高祖唐相大帥在道發之計凱為瑞字
入門法家古且誦之行是後風毛也
之平平自好年壯度陰後具昔平志
外矢平者瑞故想留後百公命一功
不及切瑞之一首可一而一只公速早
懷樂文不可外見二句已

永正丁午臘月十九日

瑞陰也唐子

百有

春の社奉由 去反秋を 年内寸尋也
神神 慈鎮 秘向也

春の社奉由 去反秋を 年内寸尋也
神神 慈鎮 秘向也
秋の社奉由 去反秋を 年内寸尋也
神神 慈鎮 秘向也

秋の社奉由 去反秋を 年内寸尋也
神神 慈鎮 秘向也
春の社奉由 去反秋を 年内寸尋也
神神 慈鎮 秘向也

春の社奉由 去反秋を 年内寸尋也
神神 慈鎮 秘向也
秋の社奉由 去反秋を 年内寸尋也
神神 慈鎮 秘向也

念にても... 氷に... 鏡... 神... 心... 懐

そ... 世の... 業師... 心... 世... 心... 業師

心... 世... 心... 業師... 心... 世... 心... 業師

夏日... 自... 和... 行... 大... 由... 言... 無... 負... 隆... 去... 二... 千... 三... 應... 年... 夏... 種... 子... 定... 家... 西... 夏... 家... 同... 向... 海... 早... 去

同... 向... 海... 早... 去... 同... 向... 海... 早... 去

同... 向... 海... 早... 去... 同... 向... 海... 早... 去

同... 向... 海... 早... 去... 同... 向... 海... 早... 去

同... 向... 海... 早... 去... 同... 向... 海... 早... 去

山河毒花

今いよあけし山河のこころあめりし心はかた梅の
梅鬘来風 あつら

西風も自いゆせしはさるるの池に春つる梅の
水色も古柳

杉の柳の陰のうらやみうらやみのまじりて
雨中の竹花

鳥の急げのまじりて花とまじりて
野花も人 のまじり

そつとまじりてこのまじりてさうて梅の外も
遠らと山花

ゆめゆめのまじりてのうらやみははな花の
曉庭落る花

梅も花もあつらわつる庭の花も
花も花もあつらわつる庭の花も

いはさしにわつらわつる庭の花も
いはさしにわつらわつる庭の花も

いはさしにわつらわつる庭の花も
いはさしにわつらわつる庭の花も

いはさしにわつらわつる庭の花も
いはさしにわつらわつる庭の花も

いはさしにわつらわつる庭の花も
いはさしにわつらわつる庭の花も

いはさしにわつらわつる庭の花も
いはさしにわつらわつる庭の花も

いはさしにわつらわつる庭の花も
いはさしにわつらわつる庭の花も

いはさしにわつらわつる庭の花も
いはさしにわつらわつる庭の花も

いはさしにわつらわつる庭の花も
いはさしにわつらわつる庭の花も

いはさしにわつらわつる庭の花も
いはさしにわつらわつる庭の花も

ふにこころをみたりとて
池田の浦

みよしの池のふりさけの
田舎の女

海草のふりさけの
言掛の女

こころのふりさけの
ねの月

あつらひのふりさけの
罪の女

あつらひのふりさけの
同底堂

あつらひのふりさけの
りはりの女

あつらひのふりさけの
秋の女

あつらひのふりさけの
初秋の女

あつらひのふりさけの
野原の女

あつらひのふりさけの
笑みの女

あつらひのふりさけの
舟の女

あつらひのふりさけの
都の女

あつらひのふりさけの
月夜の女

あつらひのふりさけの
ねの夜の女

あつらひのふりさけの
海見の女

あつらひのふりさけの
あつらひの女

百首わう年の一冊 去三十一月中此年世

之志傳

やうもていりし是れ之より志の心

橋あり

やうもつこころありし時のおもひの天竺言

去のち

あはれいりしはこころあわれし去のち

去のち

あはれいりしはこころあわれし去のち

去のち

あはれいりしはこころあわれし去のち

去のち

あはれいりしはこころあわれし去のち

去のち

あはれいりしはこころあわれし去のち

去のち

あはれいりしはこころあわれし去のち

去のち

あはれいりしはこころあわれし去のち

ふらうちのの海もよまは国にわかれぬ
又地

まじりしちり言のいれはるるに
折敷

るにうらまのりしちり言のいれはるるに
名

いほしむわむのいれはるるに
言ふ水

やんよはるるに言のいれはるるに
夏

しきしるわのりしちり言のいれはるるに
新

いほしむわむのいれはるるに
新

いほしむわむのいれはるるに
新

いほしむわむのいれはるるに
新

いほしむわむのいれはるるに
新

いほしむわむのいれはるるに
新

いほしむわむのいれはるるに
新

いほしむわむのいれはるるに
新

いほしむわむのいれはるるに
新

いほしむわむのいれはるるに
新

いほしむわむのいれはるるに
新

新

新

新

新

新

新

新

新

新

新

新

新

新

新

新

新

細代

よきものなるをまきしるす

その

いふはまのしるす

その

いふはまのしるす

その

いふはまのしるす

その

いふはまのしるす

その

いふはまのしるす

その

いふはまのしるす

いふはまのしるす

その

その

いふはまのしるす

いふはまのしるす

いふはまのしるす

その

いふはまのしるす

いふはまのしるす

その

いふはまのしるす

いふはまのしるす

いふはまのしるす

その

いふはまのしるす

いふはまのしるす

その

月よりのいづれにけりしはなほ
言の海を

いづれにけりしはなほ
あまのこ

あまのこ
あまのこ

あまのこ
あまのこ

あまのこ
あまのこ

あまのこ
あまのこ

あまのこ
あまのこ

あまのこ
あまのこ

あまのこ
あまのこ

あまのこ
あまのこ

あまのこ
あまのこ

あまのこ
あまのこ

あまのこ
あまのこ

あまのこ
あまのこ

あまのこ
あまのこ

あまのこ
あまのこ

あまのこ
あまのこ

あまのこ
あまのこ

あまのこ
あまのこ

あまのこ
あまのこ

あまのこ
あまのこ

あまのこ
あまのこ

あまのこ
あまのこ

あまのこ
あまのこ

あまのこ
あまのこ

あまのこ
あまのこ

あまのこ
あまのこ

あまのこ
あまのこ

あまのこ
あまのこ

あまのこ
あまのこ

あまのこ
あまのこ

あまのこ
あまのこ

懐旧録

神新祇

韓教

人の世のら

この國

傳あると點す首

事也

文明丁の年 倭軍家著利和歌新報前編

都 福去

甲寅

夜是

水色

解

軒

柳

Handwritten text in cursive script, likely a diary or journal entry, covering the main body of the page.

湯一連中

ふさふさいしつてささるるあなをわらわ

し様とてささるる道あり花のまは都なり

柳花

つれづれにささるるささるる後のまはるる

ささるるささるる花にささるる梅葉のまはるる

後花

ゆるゆるにささるるささるるささるるささるる

同花

ささるるのまはるるささるるささるるささるる

詠

鳥ささるるささるるささるるささるるささるる

ささるるささるるささるるささるるささるる

原

ささるるささるるささるるささるるささるる

松下

ささるるささるるささるるささるるささるる

籬

ささるるささるるささるるささるるささるる

浦

ささるるささるるささるるささるるささるる

惜

ささるるささるるささるるささるるささるる

夏

ささるるささるるささるるささるるささるる

首

ささるるささるるささるるささるるささるる

花

ささるるささるるささるるささるるささるる

花

ささるるささるるささるるささるるささるる

かろきいりしあまのくにさかひの山勢

胡柳樹

わさきけしむらじり松樹のしほのうらみ

地昌蒲

けしむらじり水きりさるるわさき

移り雨

うらみ中絶せりわらるるあまのうらみ

浄土抄

月影をうらみしむらじり松樹のしほ

浄土抄

うらみしむらじり松樹のしほのうらみ

樹法抄

あたしむらじり松樹のしほのうらみ

何夏稿

何のうらみしむらじり松樹のしほ

新抄

かろきいりしあまのくにさかひの山勢

新抄

かろきいりしあまのくにさかひの山勢

新抄

かろきいりしあまのくにさかひの山勢

新抄

かろきいりしあまのくにさかひの山勢

新抄

かろきいりしあまのくにさかひの山勢

新抄

かろきいりしあまのくにさかひの山勢

新抄

かろきいりしあまのくにさかひの山勢

新抄

かろきいりしあまのくにさかひの山勢

忠告

ついでに、この中、いよいよあきらむるものからいふと

石原好子

たにや、浦子、たにや、好子、松子、あきらむるものからいふと

松原

物、この山の麓、あきらむるものからいふと

藤原

凡、この山、あきらむるものからいふと

月野

い、この山、あきらむるものからいふと

葉中

あ、この山、あきらむるものからいふと

草一

月、この山、あきらむるものからいふと

つ、この山、あきらむるものからいふと

文、この山、あきらむるものからいふと

水、この山、あきらむるものからいふと

あ、この山、あきらむるものからいふと

あ、この山、あきらむるものからいふと

あ、この山、あきらむるものからいふと

田家也

乃てこゝろのあつた日せいの浦のちとあつたあつた

宝灯歌集

向くこゝろのあつた日せいの浦のちとあつたあつた

新あつた

やとあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた

こゝろのあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた

破れ松

ついでにあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた

後歌

吹くあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた

蘇い平

日の新のあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた

常村鳩宿

あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた

後良

しとあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた

吾本眺とあつた

頃うのあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた

奇車抄紙

まのあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた

奇鏡又教

はつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた

奇舟去書

はつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた

奇四記言

あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた

生つてはしほつたの葉あつたまゝにふたつあつた

浄くはつたまゝにふたつあつた

秋のつたまゝにふたつあつた

りんのつたまゝにふたつあつた

あつたまゝにふたつあつた

花のつたまゝにふたつあつた

首のつたまゝにふたつあつた

仲のつたまゝにふたつあつた

わつたまゝにふたつあつた

送電のつたまゝにふたつあつた

松のつたまゝにふたつあつた

河のつたまゝにふたつあつた

故の水のつたまゝにふたつあつた

時々のつたまゝにふたつあつた

物産功簿

初年

りんのつた

あつた

花のつた

首のつた

仲のつた

わのつた

送電のつた

松のつた

河のつた

故の水のつた

時々のつた

あつた

りんのつた

首解

うらみは時を流るる水に流るる如くは
そとに流るる水に流るる如くは

日々時を

もよほさるる水の体言に對するは
那は流るる

那は流るる水に流るる如くは
まよほさるる

その流るる水に流るる如くは
水に流るる

水に流るる水に流るる如くは
水に流るる

水に流るる水に流るる如くは
水に流るる

水に流るる水に流るる如くは
水に流るる

水に流るる水に流るる如くは
水に流るる

水に流るる水に流るる如くは
水に流るる

水に流るる水に流るる如くは
水に流るる

水に流るる水に流るる如くは
水に流るる

水に流るる水に流るる如くは
水に流るる

水に流るる水に流るる如くは
水に流るる

水に流るる水に流るる如くは
水に流るる

水に流るる水に流るる如くは
水に流るる

水に流るる水に流るる如くは
水に流るる

百芳和歌 日辛九月九日に本内書写

去二千一

威高立之

いふゆゑにいふしうくわい何年かたかた

しき

あつこの根うす海さうらやあつこさつ強ひるに

何事

これ海も仲もあつこはくくくあつこあつこ

高の果

あつこあつこあつこあつこあつこあつこあつこ

澤の

あつこあつこあつこあつこあつこあつこあつこ

松路

あつこあつこあつこあつこあつこあつこあつこ

庭

あつこあつこあつこあつこあつこあつこあつこ

あつこあつこあつこあつこあつこあつこあつこ

野

あつこあつこあつこあつこあつこあつこあつこ

朝柳

あつこあつこあつこあつこあつこあつこあつこ

あつ

あつこあつこあつこあつこあつこあつこあつこ

あつ

あつこあつこあつこあつこあつこあつこあつこ

あつ

あつこあつこあつこあつこあつこあつこあつこ

あつ

あつこあつこあつこあつこあつこあつこあつこ

あつ

あつこあつこあつこあつこあつこあつこあつこ

あつ

あつこあつこあつこあつこあつこあつこあつこ

あつ

あつこあつこあつこあつこあつこあつこあつこ

あつ

あつこあつこあつこあつこあつこあつこあつこ

早幼朝

辛しほまうろくおる平たあるの神の御記
下り大車深

群のあいの橋にまわく世をたふしけり
郡の記

うらみあはれなる世にわらむ世を舞ひあは
我作

そとにまはれぬとまはるるつゝもて大森の
前あり

花前地のことゆりゆくとせよとらるるあ
メ廉

あつたをいせむむはりりかまはらるる
初より

まゝありわし井はるのほりしはなれり
る中

いかにのきりし世の世にまゝいかに
何と

いかにのきりし世の世にまゝいかに
秋田

あつたをいせむむはりりかまはらるる
禁中

花前地のことゆりゆくとせよとらるるあ
古月

あつたをいせむむはりりかまはらるる
古月

あつたをいせむむはりりかまはらるる
古月

あつたをいせむむはりりかまはらるる
古月

あつたをいせむむはりりかまはらるる
古月

あつたをいせむむはりりかまはらるる
古月

よるのちのけいふまはれ
新夜は懐

大空よのけいふの
多きは懐

杉木よのけいふの
多きは懐

吾百のけいふの
多きは懐

人のけいふの
多きは懐

くまのけいふの
多きは懐

り決のけいふの
多きは懐

誠百首のけいふの
多きは懐

春二つ

永西之春二つ
千首のけいふの

えんけいふの
多きは懐

立世のけいふの
多きは懐

梅のけいふの
多きは懐

竹のけいふの
多きは懐

山のけいふの
多きは懐

梅のけいふの
多きは懐

我のけいふの
多きは懐

河柳のけいふの
多きは懐

いづれつらうかといふの可成りなむいづれは書柳
春の

梅のつらさくもいづれの前のおもひにこそ書柳を
はるかに

春の梅は春の梅のいづれもいづれもいづれも
花

春の梅は春の梅のいづれもいづれもいづれも
梅のつらさくもいづれの前のおもひにこそ書柳を

いづれつらうかといふの可成りなむいづれは書柳
春の

梅のつらさくもいづれの前のおもひにこそ書柳を
はるかに

春の梅は春の梅のいづれもいづれもいづれも
花

春の梅は春の梅のいづれもいづれもいづれも
梅のつらさくもいづれの前のおもひにこそ書柳を

いづれつらうかといふの可成りなむいづれは書柳
春の

梅のつらさくもいづれの前のおもひにこそ書柳を
はるかに

春の梅は春の梅のいづれもいづれもいづれも
花

春の梅は春の梅のいづれもいづれもいづれも
梅のつらさくもいづれの前のおもひにこそ書柳を

いづれつらうかといふの可成りなむいづれは書柳
春の

梅のつらさくもいづれの前のおもひにこそ書柳を
はるかに

春の梅は春の梅のいづれもいづれもいづれも
花

昌海

いづれつらうかといふの可成りなむいづれは書柳
春の

梅のつらさくもいづれの前のおもひにこそ書柳を
はるかに

：：：：：

白雲のそらよの風をいそぐたはるの山

：：：：

下はうらやまのこゝろをいそぐたはるの山

：：：

うらやまのこゝろをいそぐたはるの山

：：：

性のはつたをいそぐたはるの山

：：：

くろくろのそらよの風をいそぐたはるの山

：：：

のそらよの風をいそぐたはるの山

：：：

新牙のそらよの風をいそぐたはるの山

：：：

いそぐたはるの山

：：

あつたはるの山

：：

あつたはるの山

：：

あつたはるの山

：：

あつたはるの山

：：

あつたはるの山

：：

あつたはるの山

：：

あつたはるの山

：：

あつたはるの山

夏一のわい

しんきん更衣

しんきん人もきつしんきん更衣は梅のこいほはわ
卯辰作徳

あつちの梅も梅も卯辰のこいほはわしんきん更衣

雪中の卯辰

卯辰はわわわの卯辰の卯辰はわわわの卯辰

梅の卯辰

卯辰はわわわの卯辰の卯辰はわわわの卯辰

石の卯辰

卯辰はわわわの卯辰の卯辰はわわわの卯辰

梅の卯辰

卯辰はわわわの卯辰の卯辰はわわわの卯辰

卯辰はわわわ

卯辰はわわわの卯辰の卯辰はわわわの卯辰

卯辰はわわわ

卯辰はわわわの卯辰の卯辰はわわわの卯辰

卯辰はわわわ

卯辰はわわわの卯辰の卯辰はわわわの卯辰

卯辰はわわわ

卯辰はわわわの卯辰の卯辰はわわわの卯辰

卯辰はわわわ

卯辰はわわわの卯辰の卯辰はわわわの卯辰

卯辰はわわわ

卯辰はわわわの卯辰の卯辰はわわわの卯辰

卯辰はわわわ

卯辰はわわわの卯辰の卯辰はわわわの卯辰

卯辰はわわわ

卯辰はわわわの卯辰の卯辰はわわわの卯辰

卯辰はわわわ

卯辰はわわわの卯辰の卯辰はわわわの卯辰

卯辰はわわわ

卯辰はわわわの卯辰の卯辰はわわわの卯辰

卯辰はわわわ

卯辰はわわわの卯辰の卯辰はわわわの卯辰

卯辰はわわわ

卯辰はわわわの卯辰の卯辰はわわわの卯辰

卯辰はわわわ

持衣列

衣のこにいやりてこのいあせんとあつて
對菊は終

仙人のりてさうのあつてあつてあつてあつて
お染ゆ花

お染ゆ花のあつてあつてあつてあつてあつて
後都の送解

いほもさうあつてあつてあつてあつてあつて
お下あつて

お下あつてあつてあつてあつてあつてあつて
物とあつて

あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて
お染ゆ花

あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて
お下あつて

あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて
お下あつて

あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて
お下あつて

あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて
お下あつて

あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて
お下あつて

あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて
お下あつて

あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて
お下あつて

あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて
お下あつて

あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて
お下あつて

あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて
お下あつて

かへりてはあはれいふにふたはしりてはあはれいふに
あはれいふに

あはれいふに
あはれいふに

あはれいふに
あはれいふに

あはれいふに
あはれいふに

あはれいふに
あはれいふに

あはれいふに
あはれいふに

あはれいふに
あはれいふに

あはれいふに
あはれいふに

あはれいふに
あはれいふに

あはれいふに
あはれいふに

あはれいふに
あはれいふに

あはれいふに
あはれいふに

あはれいふに
あはれいふに

あはれいふに
あはれいふに

あはれいふに
あはれいふに

あはれいふに
あはれいふに

あはれいふに

あはれいふに

あはれいふに

あはれいふに

あはれいふに

あはれいふに

あはれいふに

あはれいふに

あはれいふに

あはれいふに

あはれいふに

あはれいふに

あはれいふに

あはれいふに

あはれいふに

あはれいふに

冒也

君の心はさしつかへなくし梅の香はささるるはるる

門柳

小枝にけりまはるる梅柳の影はささるる

初花

しらけりたるはるるを花はささるる

朝花

春のあも走とそと朝花はささるる

花

この花はささるるはるるを花はささるる

花

この花はささるるはるるを花はささるる

花

この花はささるるはるるを花はささるる

花

この花はささるるはるるを花はささるる

この花はささるるはるるを花はささるる

梅

この花はささるるはるるを花はささるる

梅

この花はささるるはるるを花はささるる

梅

この花はささるるはるるを花はささるる

梅

この花はささるるはるるを花はささるる

梅

この花はささるるはるるを花はささるる

梅

この花はささるるはるるを花はささるる

梅

つれづれに
遠杜鶴
秋

つれづれに
海杜鶴

つれづれに
北野麦

つれづれに
早稲

つれづれに
樹陰

つれづれに
わりの面

つれづれに
八雲

つれづれに
新蟹

つれづれに
袖涼

つれづれに
六月

つれづれに
秋

つれづれに
早稲

つれづれに
秋風

つれづれに
秋風

つれづれに
秋風

つれづれに
秋風

つれづれに
遠杜鶴
秋

つれづれに
海杜鶴

つれづれに
北野麦

つれづれに
早稲

つれづれに
樹陰

つれづれに
わりの面

つれづれに
八雲

つれづれに
新蟹

つれづれに
袖涼

つれづれに
六月

つれづれに
秋

つれづれに
早稲

つれづれに
秋風

つれづれに
秋風

つれづれに
秋風

つれづれに
秋風

八子振女ハコの御座り候へば

引ヒキも御座り候へば

舞マユ

この舞の御座り候へば

はさかたの御座り候へば

移ウツリわさめ候へば

舞マユ衣イ新ニ

引ヒキ初ハジメの御座り候へば

引ヒキ初ハジメの御座り候へば

去秋に初ハジメの御座り候へば

あつたに御座り候へば

引ヒキ初ハジメの御座り候へば

引ヒキ初ハジメの御座り候へば

あつたに御座り候へば

引ヒキ初ハジメの御座り候へば

あつたに御座り候へば

引ヒキ初ハジメの御座り候へば

あつたに御座り候へば

春深微雨夕

花をいづこころのさびしき花の影に

新葉の影に下相呼

負花未度

花の時移りては

花の時移りては

花の時移りては

花の時移りては

花の時移りては

花の時移りては

花の時移りては

花の時移りては

花の時移りては

花の時移りては

花の時移りては

花の時移りては

花の時移りては

花の時移りては

花の時移りては

花の時移りては

花の時移りては

花の時移りては

花の時移りては

花の時移りては

花の時移りては

花の時移りては

花の時移りては

花の時移りては

花の時移りては

カ出居て也

外にさしひらけりおのまゝにP. 200よりさしひらけり

いそのやうなものをいふにP. 200よりさしひらけり

少くもP. 200よりさしひらけり

くこのおれはP. 200よりさしひらけり

ゆゑにP. 200よりさしひらけり

いこのやうなものをいふにP. 200よりさしひらけり

田つちにはさしひらけり

夜をさしひらけり

移座するもさしひらけり

白妙の神といふにP. 200よりさしひらけり

白妙の神といふにP. 200よりさしひらけり

白妙の神といふにP. 200よりさしひらけり

白妙の神といふにP. 200よりさしひらけり

白妙の神といふにP. 200よりさしひらけり

白妙の神といふにP. 200よりさしひらけり

白妙の神といふにP. 200よりさしひらけり

白妙の神といふにP. 200よりさしひらけり

白妙の神といふにP. 200よりさしひらけり

白妙の神といふにP. 200よりさしひらけり

蕪草 通之極

風れいれぬの風しむもかかぬの風い
林園不道人

瓜子あやのいさ別いさのいさあやのいさあや
掩後別いさのいさ

復たいさあやのいさあやのいさあやのいさあや
行かぬ母已老

らるるいさあやのいさあやのいさあやのいさあや
異音あやのいさ

以蛇あやのいさあやのいさあやのいさあやのいさあや
日有得あやのいさ

作あやのいさあやのいさあやのいさあやのいさあや
口將契あやのいさ

作あやのいさあやのいさあやのいさあやのいさあや
静謐あやのいさ

作あやのいさあやのいさあやのいさあやのいさあや
静謐あやのいさ

作あやのいさあやのいさあやのいさあやのいさあや
静謐あやのいさ

作あやのいさあやのいさあやのいさあやのいさあや
静謐あやのいさ

作あやのいさあやのいさあやのいさあやのいさあや
静謐あやのいさ

作あやのいさあやのいさあやのいさあやのいさあや
静謐あやのいさ

作あやのいさあやのいさあやのいさあやのいさあや
静謐あやのいさ

作あやのいさあやのいさあやのいさあやのいさあや
静謐あやのいさ

作あやのいさあやのいさあやのいさあやのいさあや
静謐あやのいさ

作あやのいさあやのいさあやのいさあやのいさあや
静謐あやのいさ

初帖又六考

尾衣紙

作あやのいさあやのいさあやのいさあやのいさあや
静謐あやのいさ

作あやのいさあやのいさあやのいさあやのいさあや
静謐あやのいさ

い百有之の四の簡
題 文集之法年 有真真之同不願
辨 宮法王信方多 是早方備
畏紙 有 有真真之同不願
何續 加之可 秘藏之

永正二年の女二り

左列

百一 永正二年の女二り

早方備

有真真之同不願

是早方備

有真真之同不願

有真真之同不願

有真真之同不願

有真真之同不願

有真真之同不願

梅

あにさいにしるまゝの可なり
戸をこし

戸の奥のまゝの可なり
戸をこし

あにさいにしるまゝの可なり
戸をこし

あにさいにしるまゝの可なり
戸をこし

あにさいにしるまゝの可なり
戸をこし

あにさいにしるまゝの可なり
戸をこし

あにさいにしるまゝの可なり
戸をこし

あにさいにしるまゝの可なり
戸をこし

あにさいにしるまゝの可なり
戸をこし

あにさいにしるまゝの可なり
戸をこし

あにさいにしるまゝの可なり
戸をこし

あにさいにしるまゝの可なり
戸をこし

あにさいにしるまゝの可なり
戸をこし

あにさいにしるまゝの可なり
戸をこし

あにさいにしるまゝの可なり
戸をこし

あにさいにしるまゝの可なり
戸をこし

あにさいにしるまゝの可なり
戸をこし

ういに那

ういのつてもあつたを

ういのつてもあつたを

ういのつてもあつたを

ういのつてもあつたを

ういのつてもあつたを

ういのつてもあつたを

ういのつてもあつたを

ういのつてもあつたを

ういのつてもあつたを

ういのつてもあつたを

ういのつてもあつたを

ういのつてもあつたを

ういのつてもあつたを

蘇三下と和語

君

早急水

細い漁師

あめいよひしける

あめいよひしける

あめいよひしける

あめいよひしける

あめいよひしける

あめいよひしける

あめいよひしける

あめいよひしける

あめいよひしける

あめいよひしける

あめいよひしける

あめいよひしける

あめいよひしける

五部

神とていふもことごとく一神とていふもことごとく

りといふも神といふもことごとく一神とていふもことごとく

夫のいふもことごとく一神とていふもことごとく

たりといふも神といふもことごとく一神とていふもことごとく

花所野中村のいふもことごとく一神とていふもことごとく

心のおのむのいふもことごとく一神とていふもことごとく

ねのいふもことごとく一神とていふもことごとく

又月日刻にいふもことごとく一神とていふもことごとく

あつたつと神のいふもことごとく一神とていふもことごとく

うつたつと神のいふもことごとく一神とていふもことごとく

あつたつと神のいふもことごとく一神とていふもことごとく

あつたつと神のいふもことごとく一神とていふもことごとく

あつたつと神のいふもことごとく一神とていふもことごとく

あつたつと神のいふもことごとく一神とていふもことごとく

あつたつと神のいふもことごとく一神とていふもことごとく

松

はるしからりまきしむる後一人のま

敬名

多々しむるまきしむる後一人のま

報

暖新

うぬまきしむる後一人のま

国中一覽

ありしむるまきしむる後一人のま

霧籠

ありしむるまきしむる後一人のま

正徳

ありしむるまきしむる後一人のま

正徳

新報細い後一人のま

早

城女都知音

ありしむるまきしむる後一人のま

子

ありしむるまきしむる後一人のま

梅屋

ありしむるまきしむる後一人のま

梅屋

ありしむるまきしむる後一人のま

風花

ありしむるまきしむる後一人のま

新報

ありしむるまきしむる後一人のま

新報

ありしむるまきしむる後一人のま

Handwritten text in cursive script, likely a list or notes. Includes the character '信' (Shin) written vertically. The text is dense and difficult to decipher due to the cursive style.

Handwritten text in cursive script, continuing from the previous page. Includes the character '部' (Bu) written vertically. The text is dense and difficult to decipher due to the cursive style.

歌名

あはれなるを *aware naru o*

恨

あはれなるを *aware naru o*

懐

あはれなるを *aware naru o*

海中央

あはれなるを *aware naru o*

舞

あはれなるを *aware naru o*

生

あはれなるを *aware naru o*

礼言

あはれなるを *aware naru o*

百首 *hyakushu*

百首 *hyakushu*

あはれなるを *aware naru o*

あはれ

あはれなるを *aware naru o*

あはれなるを *aware naru o*

道

あはれなるを *aware naru o*

善

あはれなるを *aware naru o*

輪

あはれなるを *aware naru o*

梅

あはれなるを *aware naru o*

柳

あはれ

春柳花三つあり初めは陽春の歌りいふの意の
早蕨

信女のこおとろく杉葉のいふくしの歌の
藤

七重の花は都路の梅のよめはついで
春の曲

あはれさるよめはあはれはついで
春の歌

時あはれはあはれはついで
春の歌

あはれはあはれはついで
春の歌

人の歌のいふはついで
春の歌

あはれはあはれはついで
春の歌

あはれはあはれはついで
春の歌

あはれはあはれはついで
春の歌

あはれはあはれはついで
春の歌

あはれはあはれはついで
春の歌

あはれはあはれはついで
春の歌

卯夕の種とては庚辰の辰とては卯の辰

燄火

のついでとては辰の辰とては卯の辰

降夜

このついでとては辰の辰とては卯の辰

神立

後初里の辰の辰とては卯の辰

不道

このついでとては辰の辰とては卯の辰

思

このついでとては辰の辰とては卯の辰

神

このついでとては辰の辰とては卯の辰

信

このついでとては辰の辰とては卯の辰

遇

このついでとては辰の辰とては卯の辰

強

このついでとては辰の辰とては卯の辰

思

このついでとては辰の辰とては卯の辰

思

このついでとては辰の辰とては卯の辰

恨

このついでとては辰の辰とては卯の辰

健

このついでとては辰の辰とては卯の辰

和

このついでとては辰の辰とては卯の辰

和

このついでとては辰の辰とては卯の辰

和

あからうとくしん 海海
旅 子
年 田原
守 檀白
一 美
可 常

る 格 用 路 何
そ 都
中 路
を 山
私 海
い 後
る 名
る 旅
る 格 用 路 何
を 山
私 海
い 後
る 名

春の日の光をひらきながら花の影を
影をひらきながら花の影を
柳の影をひらきながら花の影を

春の光

春の光をひらきながら花の影を
影をひらきながら花の影を
影をひらきながら花の影を

春の光

春の光をひらきながら花の影を
影をひらきながら花の影を
影をひらきながら花の影を

春の光

春の光をひらきながら花の影を
影をひらきながら花の影を
影をひらきながら花の影を

春の光

春の光をひらきながら花の影を
影をひらきながら花の影を
影をひらきながら花の影を

春の光

春の光をひらきながら花の影を
影をひらきながら花の影を
影をひらきながら花の影を

春の光

春の光をひらきながら花の影を
影をひらきながら花の影を
影をひらきながら花の影を

春の光

春の光をひらきながら花の影を
影をひらきながら花の影を
影をひらきながら花の影を

あつた山後あつた泉のつらむ松かむ松

早稲

いづれもつて松かむ松かむ松かむ松

てん草

早稲のつらむ松かむ松かむ松かむ松

深夜萩

萩のつらむ松かむ松かむ松かむ松

水色(赤)

浅のつらむ松かむ松かむ松かむ松

高似社

高似社のつらむ松かむ松かむ松かむ松

虫

虫のつらむ松かむ松かむ松かむ松

舞

舞のつらむ松かむ松かむ松かむ松

色

色のつらむ松かむ松かむ松かむ松

梅

梅のつらむ松かむ松かむ松かむ松

駒

駒のつらむ松かむ松かむ松かむ松

夜

夜のつらむ松かむ松かむ松かむ松

月

月のつらむ松かむ松かむ松かむ松

松

松のつらむ松かむ松かむ松かむ松

坂

坂のつらむ松かむ松かむ松かむ松

浮世

朝暮

夕

夕

夕

夕

夕

夕の後のあつたけ

夕のあつたけ

夕のあつたけ

夕のあつたけ

夕のあつたけ

夕のあつたけ

夕のあつたけ

夕のあつたけ

夕のあつたけ

夕のあつたけ

夕のあつたけ

夕のあつたけ

夕のあつたけ

夕のあつたけ

夕のあつたけ

夕のあつたけ

夕のあつたけ

夕のあつたけ

夕のあつたけ

夕のあつたけ

夕のあつたけ

夕のあつたけ

夕のあつたけ

わらわの起しはあはれにせむしにまかすに解

舞出

後の世におもひにまはるはあはれにせむしに

侍立

あはれにせむしにまはるはあはれにせむしに

留立

あはれにせむしにまはるはあはれにせむしに

侍立

あはれにせむしにまはるはあはれにせむしに

留立

あはれにせむしにまはるはあはれにせむしに

侍立

あはれにせむしにまはるはあはれにせむしに

舞出

あはれにせむしにまはるはあはれにせむしに

あはれにせむしにまはるはあはれにせむしに

侍立

あはれにせむしにまはるはあはれにせむしに

被立

あはれにせむしにまはるはあはれにせむしに

被立

あはれにせむしにまはるはあはれにせむしに

侍立

あはれにせむしにまはるはあはれにせむしに

侍立

あはれにせむしにまはるはあはれにせむしに

侍立

あはれにせむしにまはるはあはれにせむしに

侍立

あはれにせむしにまはるはあはれにせむしに

終末

百首
二千六百首

いふ可首ノ和歌二あり
又可首ノ和歌一あり

一校合

百首永正十三禁也書到

初書

破上少の中道いふうかたもねむれもやいふらん

書二

ちりぬれもまらぬの海やとまじらぬ家つとよせん
さころり入ればまの浦風一巻といはる奥の白波

書

さうせうやまうし控一本これの夕れぬに書入りし点

書

おらういさしり花のま風よまきよはゆ松の書り那

書

わすれそそ書りしその人おこしよはりのみ業ははるもつとま

梅

小初瀬や梅の匂いささるあて宿るのせしれま風

いはれどとさしらうしむ梅うねはる風ささいまの本のふ

柳

あつちの柳の名は流るるとよのりたつきはくあらん
まふ

きつては秋やうつてき高ぶる花のまふくまふの花
帰一厚

ゆふとあまきそちりしむとあひりらふまふりり
花

うへ世成みしと重井のまは花老のまふくまふりり
みりの宿のうまなむはむらよまふりりてと世を別り
らり花り花葉まふりりまふりりまふりりまふりり
山風の花やいほくよあ勝津砂のこまふりり水とあ
まふりりまふりりまふりりまふりりまふりりまふりり
ま月

浮山本のあひりりりりりりりりりりりりりりりり
花

花のりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりり
款冬

まふりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりり
三月書

まふりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりり
知花

偽のまふりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりり
郭公

まふりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりり
ま月

まふりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりり
ま月

まふりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりり
ま月

まふりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりり
ま月

まふりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりり
ま月

ありしをいふことしは我の世はついでにありしをいふこと

又五

重風ののち月を御さくくはむとさくやとさく又五此句

納涼

の袖よとる月夜も涼しき月影くもり 秋の下風

早秋

と秋のくもりさくやいさくせんせく衣も秋の初る也

又五

あつちよ卒よはくはく一巻とて往くふいたく一星合の光

七夕後朝

雲りしをさく初世のうらみも海や今朝のふれ川波

露

と秋のうらみとつむの草のふらつとつと秋の夕露

萩

白萩も身にしむる萩もむらさきと秋の夕露

萩

あきあきと秋のあつちよ下萩や中へ風れきとさくせん

萩

じもつとつと秋のあつちよとつとあそびつとつとじりまし

虫

いと秋やとつとつと秋のあつちよとつとあそびつとつと

鹿

あつちよあつちよのあつちよあつちよあつちよあつちよ

初序

往きもたのじり序のあつちよとつとあつちよとつとあつちよ

月

山里の独りともあつちよの月まはくはくはくはくはくはく

とつちよとつちよとつちよとつちよとつちよとつちよとつちよ

とつちよとつちよとつちよとつちよとつちよとつちよとつちよ

とつちよとつちよとつちよとつちよとつちよとつちよとつちよ

とつちよとつちよとつちよとつちよとつちよとつちよとつちよ

持衣

わいはいわをそとをたつともある毎なるわいのちを
思ふ事うらなひいとこのじ、ねあをらまうと身にこた
命あそもせらうとき今更にもうたんとあまのまを
元蝶のせいはらうとてけしむとてねまのまをまを
初逢く

年月を移し、紫雲のむの後の膝のわいのちを
曉別く

とまきなきを成をい鳥の音もあて別れたるを
後羽く

いふ福なきを梅のそとねれをたをまもはく
逢不遇く

立ちり又わいのちをわいと命のけの音の中を
この音志のよきよいは成てわいのちをわいのち
らまのまをまをまをまをまをまをまをまを
年をわいのちをまをまをまをまをまをまを
わいのちをわいのちをまをまをまをまをまを

わいのちをわいのちをまをまをまをまをまを
とく

わいのちをわいのちをまをまをまをまをまを
限を

中をわいのちをわいのちをまをまをまをまを
曉

あまのまをわいのちをわいのちをまをまをまを
松

へんをわいのちをわいのちをまをまをまをまを
竹

あまのまをわいのちをわいのちをまをまをまを
山

依保のうらなひをわいのちをわいのちをまをまを
河

廿年もの遠きことしつと橋川の橋をまへなり 若くは橋を

橋

今も世に絶つらとつたわきをわらわらとわらわらとわらわらと

用

秋風よつくさそこの道のとそなり 白川の用

環

心より神よ馬をんつらとつた山に霞のふけうとて

いとわらわらとつたわらわらとつたわらわらとつたわらわら

海海

よそいよそいよそいよそいよそいよそいよそいよそいよそい

山家

くもよよよよよよよよよよよよよよよよよよよよよよよ

庭よよよよよよよよよよよよよよよよよよよよよよよ

田家

床よよよよよよよよよよよよよよよよよよよよよよよ

述懐

とつらとつらとつらとつらとつらとつらとつらとつらとつらとつら

いとあつた月夜の中よよよよよよよよよよよよよよよよよ

懐旧

とつらとつらとつらとつらとつらとつらとつらとつらとつらとつら

夏

面影のいれいれいれいれいれいれいれいれいれいれいれいれいれ

神祇

今もよよよよよよよよよよよよよよよよよよよよよよよ

尺教

昔のちげのちげのちげのちげのちげのちげのちげのちげのちげのちげ

祝

あつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつたあつた

み十首

山早春

あけの葉の涼はよあけの月も野ちのわらわら
又とせし

涼はよあけの月も野ちのわらわら又とせし

他涼

秋の月も野ちのわらわら又とせし

草花

秋の月も野ちのわらわら又とせし

野外虫

あけの葉の涼はよあけの月も野ちのわらわら

芭麻

あけの葉の涼はよあけの月も野ちのわらわら

浦秋夕

あけの葉の涼はよあけの月も野ちのわらわら

月お山

あけの葉の涼はよあけの月も野ちのわらわら

梧月

あけの葉の涼はよあけの月も野ちのわらわら

閑月

あけの葉の涼はよあけの月も野ちのわらわら

栢衣

あけの葉の涼はよあけの月も野ちのわらわら

秋町名

あけの葉の涼はよあけの月も野ちのわらわら

あき白

あけの葉の涼はよあけの月も野ちのわらわら

紅葉

あけの葉の涼はよあけの月も野ちのわらわら

書秋

あけの葉の涼はよあけの月も野ちのわらわら

朝市板

あけの葉の涼はよあけの月も野ちのわらわら

冬産

かろくはの子程をよれめてゆくのきく花をまらる

祢祇

うよみお祢のやうあはれもあつたかきまき葉をう

六十首

春日社若宮中御百首姉妹御宇ね基徳くゆ吟
之内板云明戸七十二女 早女

五五

うき君のいづりさういあひの幸ゆつちうまわらうん

長鸞

谷風の沙のひまのともあはれさうりれあつ鸞のうけく

若菜

いづまの飛火の野さつきすいもあひのよきささわらふつひら

蘆梅

いづりみかたをうき行の夕月よすすいあひさ梅のうけく

美曙

あひまうあはれしつ一町のあはれさうりまひさのあき下の

五五

あつたあはれしつあひのあはれさうりまひさのあき下の

鈴花

いづりんあはれあひわらへるあはれさうりまひさのあき下の

見花

まのうらうらとさうらあはれあひのあはれさうりまひさのあき下の

あ花

花よりさうらのあはれあひのあはれさうりまひさのあき下の

池藤

池水もれとさうらあひのあはれさうりまひさのあき下の

卯花

恨みの今もさうらあひのあはれさうりまひさのあき下の

守時鳥

さうらあひのあはれさうりまひさのあき下の

死橋

さうらあひのあはれさうりまひさのあき下の

あ月句

春の色よわらぬおしるを水に目とは草にもくす時くか
の鳥

その池の砂はまればさうあつた水は鳥のそらよの夢
冬月

あうらして月につまなさいのまの時をばせらのそら
野暮

と夜ふの白と雪と中流よあせしじつ世の風
積雪

山さといさう一れたをきさいしむいさうねるさう
嵐雪

あはれして書きたるもなや羊のふれ羊のおきよさう
壽雪

みまといよさう一さうの浮きもたれいさうあひあひと
こむ

こむれよじりきさういさうあつて築つたさうさうの雪
こむ

蒼ひらの山さてもみさうあつたの中いさうと夜さあつ
こむ

あはれして神をわらわさうみても座るあつたさう
橋

うらさきもさうさうあつたさうさうあつたさう
草

とさう今の霧の向はれさうあつても草の糸さうさう
こむ

玉はさう本をんじりさうあつたさうさうあつたさう
こむ

玉とさうあつたさうあつたさうあつたさうあつたさう
こむ

この葉もさうさうの面影をわらわさうさうのこむさう
こむ

あひさうあつたさうあつたさうあつたさうあつたさう
こむ

傳書

もよおしうれ花ののしより色よきしむ月をさむら
秋云

ほろろのねこころいそげいそげいそげのなみよらうも
夜月

あつと六月のうらな秋のまやあつた極よしうら風
五月雨

池底のほろろいそげいそげいそげのなみよらうも
夕立

世平は何もきこえし夕立いそげいそげのなみよらうも
秋二十首

水がまをわそしそいそげいそげのなみよらうも
早秋

きらきらいそげいそげいそげのなみよらうも
七夕後羽

あつと秋のなみよらうも
萩

あつと秋のなみよらうも
薄

あつと秋のなみよらうも
萩

あつと秋のなみよらうも
月

あつと秋のなみよらうも
霧

あつと秋のなみよらうも
初霧山

あつと秋のなみよらうも
お紫

あつと秋のなみよらうも
冬十首

あつと秋のなみよらうも
初冬

あつと秋のなみよらうも
冬月

一じいのつきぢの行のきんきそ我我の月れごとくゆるり
雷

うねりふれを井のねとと朝これの目影は白く初雪の光
松の葉も年暮はくく雪に冬のむくみさみりーの山

初雪

思恋

らうきねえとさうきの人恋れとやまいつりよせのひとあは
不逢ー

恨てもとひくもせのきあまのいひとあめひつくとあは
初逢ー

初逢

伊いよけきとひつかりにうらあかてせあまねあ相とあは
後朝ー

後朝

とふりあうひくよとあふひくよあてねのあを歎くとあ
過不逢ー

思恋

うらりひその世のあまのいひとあまのあまのあまのあ
雑二十首

曉

朝つものひるもははまののつくさひとあまのあまのあ
竹

竹

とく生のまをねあまのあまのあまのあまのあ
河

河

世にうたをよそすましけあまのあまのあまのあ
開

開

春あまのあまのあまのあまのあまのあ
旅

旅

草花一本二枚とあまのあまのあまのあ
山家

山家

あまのあまのあまのあまのあまのあ

波風のうらみ木立のみにけりお花のすまの世のいさよ
の石

まろりうきと照を灯のわしは浪をせよとてしん

浪標

まろりあまの舟とつづく一年月のちるしんを位名の舟

蓬生

まろりうきとわのわしは蓬生にみのとてりよ日とてし

閑屋

みかてるまのうらみとつづくしんを位名の舟

繪合

海風のいけりわのうらみとつづくしんを位名の舟

松風

いさようきとわのわしは松風のうらみとつづくしん

落雲

おろりうきとわのわしは落雲のうらみとつづくしん

槿

あまのうらみとわのわしは槿のうらみとつづくしん

し女

あまのうらみとわのわしはし女のうらみとつづくしん

玉鬘

あまのうらみとわのわしは玉鬘のうらみとつづくしん

初子

あまのうらみとわのわしは初子のうらみとつづくしん

羽蝶

あまのうらみとわのわしは羽蝶のうらみとつづくしん

螢

あまのうらみとわのわしは螢のうらみとつづくしん

瞿麦

あまのうらみとわのわしは瞿麦のうらみとつづくしん

篝火

あまのうらみとわのわしは篝火のうらみとつづくしん

野分

あしあしこ水くふりし朝日きぬの智命ひあしきよしり
行幸

あしきよしりのり幸なやまきしのかしとらわらふしり
蘭

あしきよしりのり色の着ん海きよあしりの露れやうりな
核粒

あしきよしりのり名跡うりしきよしりはしり海きよあしり神の露の精
梅枝

あしきよしりのり梅を三葉りぬ白ひるうらん神もうりすあしりし
有雲葉

あしきよしりのりあしきよしりのりあしきよしりのりあしきよしりのり
若葉し

あしきよしりのりあしきよしりのりあしきよしりのりあしきよしりのり
同下

あしきよしりのりあしきよしりのりあしきよしりのりあしきよしりのり
梅本

あしきよしりのりあしきよしりのりあしきよしりのりあしきよしりのり
横笛

あしきよしりのりあしきよしりのりあしきよしりのりあしきよしりのり
冷虫

あしきよしりのりあしきよしりのりあしきよしりのりあしきよしりのり
夕霧

あしきよしりのりあしきよしりのりあしきよしりのりあしきよしりのり
雨法

あしきよしりのりあしきよしりのりあしきよしりのりあしきよしりのり
釣

あしきよしりのりあしきよしりのりあしきよしりのりあしきよしりのり
平ら流

あしきよしりのりあしきよしりのりあしきよしりのりあしきよしりのり
白雲の宮

あしきよしりのりあしきよしりのりあしきよしりのりあしきよしりのり
お梅

花の井の色はわかれぬ白いこそ世の母は宿の梅の枝
竹河

うらむともたけさうねと竹河の志はあやうとまことのうらむ
橋姫

橋姫の心とのまや朝の志は河旁は世のいさよ
推卒

あまのりしきとすしぬま井の心はのまよ
角池

あまをそすきとあまのまきまよのたしなまよとみあわ
早蕨

あまのあまのまよとまよのまよのまよのまよのまよ
寄本

あまのまよのまよのまよのまよのまよのまよのまよ
楽金

あまのまよのまよのまよのまよのまよのまよのまよ
字本

あまのまよのまよのまよのまよのまよのまよのまよ
蛭蛉

あまのまよのまよのまよのまよのまよのまよのまよ
いかり

あまのまよのまよのまよのまよのまよのまよのまよ
夏浮橋

あまのまよのまよのまよのまよのまよのまよのまよ
三十首

あまのまよのまよのまよのまよのまよのまよのまよ
蹴履

あまのまよのまよのまよのまよのまよのまよのまよ
暁更寫

あまのまよのまよのまよのまよのまよのまよのまよ
橋柳

あまのまよのまよのまよのまよのまよのまよのまよ
花為人

江上春

ひまわしはなはらふまきふらふら那岐のまよひ

後仰

なつたうらもさかおのむの香いふまもさねて

野町

じつしむらひもあつては那の草の極やゆつて

白後粉川

ふらして月のはと粉ひみらしてまもあつたの

月が枝

まらあつたのわらふはゆきあつたの月をま

夕虫

あつたのまらふはゆきあつたの月をま

海色麻

あつたのまらふはゆきあつたの月をま

周産産

あつたのまらふはゆきあつたの月をま

名雨栲衣

あつたのまらふはゆきあつたの月をま

朝寒

あつたのまらふはゆきあつたの月をま

海色千鳥

あつたのまらふはゆきあつたの月をま

ねむ

あつたのまらふはゆきあつたの月をま

因聲

あつたのまらふはゆきあつたの月をま

佛意

あつたのまらふはゆきあつたの月をま

坊意

あつたのまらふはゆきあつたの月をま

怨意

あつたのまらふはゆきあつたの月をま

尋花

たのむくも情まじりて尋花ありてさきもなうしと

花雪

白きをまじりて花のわらひし風はゆきと花の白き

荊昌蒲

と草はうらみれしよきれあはれの日を先やうし

細涼

用を勤らむし心の涼しすあつたりのみまのね

夕雲

かきうらみれの涼かたけに霞のひらきもそよ雲れ

夕夕

らきうらみれに夕のくしんひらきあ中のあまの何あり

何し雲

あまれあはれあまのねにほくきと雲のしんああ

月か露

世のねりも終るをうらみ毒の袖とあて月の露とをいさ

野庭月

雪のうらみれあつたりの風はゆきとすあつた月

曉麻

初めうらみれあつたりの風はゆきとすあつた月

水色(草)

い海にせよらみてあつたりの風はゆきとすあつた月

昔秋虫

こころあつたりの風はゆきとすあつた月

朝雪

さゆりゆきあつたりの風はゆきとすあつた月

雨の音

さあつたりの風はゆきとすあつた月

湖色(雪)

あつたりの風はゆきとすあつた月

初意

初意のうらみれあつたりの風はゆきとすあつた月

不逢意

あはれいさしありしと聞て世の契もあはれいさし

状也

あはれいさしありしと聞て世の契もあはれいさし

梅一葉

あはれいさしありしと聞て世の契もあはれいさし

見落意

あはれいさしありしと聞て世の契もあはれいさし

片意

あはれいさしありしと聞て世の契もあはれいさし

後久意

あはれいさしありしと聞て世の契もあはれいさし

為善松

あはれいさしありしと聞て世の契もあはれいさし

母書一

あはれいさしありしと聞て世の契もあはれいさし

海味意

あはれいさしありしと聞て世の契もあはれいさし

心山法宗

大永五年八月十九日奉納

十五夜御十首願後一冊日終切

況吟以真之状中以自筆御筆一校

續撰吟集口方

花女首和歌

永正三年三月十六日

仁和院

見花

御製表

あはれいさしありしと聞て世の契もあはれいさし

瓶花

實證

あはれいさしありしと聞て世の契もあはれいさし

折花

改寫

あはれいさしありしと聞て世の契もあはれいさし

願上志

御

へそう花より出る峯のまろなるさしとむそわつら

野庭花

美

ふかぬや草のゆりともむぬのいろけき花よ春をつらん

河花

美

あうらねんやさげやうらむ花のむきめり山川のあ

閑花

御

りうら花よあさるへまねきかひちとまにさせん

秋花

實

へんあしこまも秋のね花の時守春のうらう路

花似雪

美

花うにほうらうもこれ山橋やえき川せいのあゆらん

花似雪

御

みかほよこまと花をみひとく雪のうらとよゆふされ

月夜花

美

月夜のえきをむらさきん木これ月夜を月夜よ

風前花

美

らそふふよまはうひとさすうふ花ても吹や花の春風

白後花

御

まよ終花よのこまらぬささ白ひも冬も神よ志らむて

禁中花

實

あまうものうらひもまも春とて花よまの春のらけ

隣家花

美

我岸のち花ともいん植るきとあさきのつらつりあ

田中花

御

きますみくわもまももれじん花よ新をさ浅らふのやと

草庵花

實

あまうら草の庵れむらと日すまんききの花の時ら

花白人

美

まらぬまらぬ花もひくわわととやあひいあらむ

惜花

御

あまぬいさふつ福なりふらむと志らそそふ花の世の中

あはれ

実、

わらわのあはれをうき世のいづれもあはれと花とて人
奇花咲色 改、

咲花のあはれ咲の色も昔もはやおもくも神とてそら
一花逢 改、

花のあはれをうき世のいづれもあはれと花とて人
一花別 實、

花の神をみよもあはれをうき世のいづれもあはれと
一花愛 改、

かきうき世のいづれもあはれと花のあはれをうき世
一花恨 改、

人もうき世のいづれもあはれと花のあはれをうき世
一花旒 実、

あはれをうき世のいづれもあはれと花のあはれをうき世
一花愛 改、

あはれをうき世のいづれもあはれと花のあはれをうき世
一花述懐 改、

世のいづれもあはれと花のあはれをうき世のいづれも
一花祓紙 實、

花のあはれをうき世のいづれもあはれと花のあはれをうき世
一花祝 改、

花のあはれをうき世のいづれもあはれと花のあはれをうき世

法題の首和歌

文明十六年七月十六日

五春子日

小松原まよもよふのあはれをうき世のいづれもあはれと

わきそよふのあはれをうき世のいづれもあはれと花のあはれをうき世
若菜泥電

山陰のあはれをうき世のいづれもあはれと花のあはれをうき世
梅香移柳

花のあはれをうき世のいづれもあはれと花のあはれをうき世
梅香移柳

初會は不逢

今も昔もなつかしきあそびのうらみは一色のこころの葉のやうに

帰云書絶意

うみはつとれまじりやうらみと船きよしのつと絶よと

旅宿思恋

夢よいまはなほの影花うらみと人より恋そこゆら

竹思恨

志もいづれはなほなほ中きとてうらみのまじりもあはれ

曉更去

すさむつ行帰れしうらみのさうらみの月れは風の宿

若殿載行

うらみとあそびあつ陰の世はなほ宿とあはれす庭のれ行

山頭露

雪かき山よとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとて

何處如野草

川との浪よとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとて

過州到橋

冥途くもとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとて

海路統

いづれはなほのあはれとてとてとてとてとてとてとてとて

山家餞別

うらみとあそびあつ陰の世はなほ宿とあはれす庭のれ行

田家懷旧

おとといとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとて

夏夜常一相共

あつとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとて

芳述懷祝言

とてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとて

詠法文二十首和歌

天文初元九月盡日七十九日

無三恋趣

かみはなは波のみはなはあはれとてとてとてとてとてとてとて

念仏往生

身は穢れそれみぬるこの福をぬきさうれい四方の海もあはら
聖衆来迎

夏の世を早とろきほそつむさうり平海日すれり糸竹のしん
伴念定生

わきそ母のつらちし故國に歸てあえさけらひさう福と
具三十二相

佛よかへぬあえりの名あやしむりけが聖とともや
必至猶交

たもとよれわとさうきりくきとあしとも仏のけりともあや
供養諸佛

羽のういあへこのとも花の枝とあやうともいよおとそり
供養如き

かきりあて三世の佛にうともあてきて花をよむはるれ
説一切智

さう道とわそれのみれを梓らとてをいぬんとも浪海と
得金對身

天地をうこしぬつきりれ福をうりて佛の力こそき理
萬物嚴淨

おとよふともさう國のうりに教もあやぬ名の生さきり
見道場樹

たもとよれわとさう時のまともう終りあやう成さりの本れ平
は禪と知

軽たよのほよふあそああれりともさうりともあはれあう
十指とす窮

今もあてりなせ海を橋とらるてしちういよあてり
徹見十方

また後をゆりへりりりらとにそ又さうりともさう先かきり
名重十方

二條よりよひふ丹よそとらあき神もわくしそはのま風
觸光柔秋

うらなりのまにたのつら書とあらぬ春にあけ

中巻 婦生

南堂河原迄といふわきく我をうねるねにせしむるの伝はる
如くは生

葉の重のうらみはちやこころしちのうきをなすとも
き修丹丸也

三つにいはし中れそりいれはるえれうねあをけりて
五人致致

しと我の衣を脱してせんとしん三の羽衣あはし
衣服随念

そらちやもそらちやとてわが衣袂ゆきしをそらち
示か偏あ

うらみそらちみとていふはくしとてしみるはくし
見張伝也

夢のうらみの法のこころいふはくしとてはくし
中巻 具根

何ともあはれとてはくしとてはくしとてはくしとてはくし
中巻 婦生

そののいなもよもよとて佛よもよもよとてはくし
生さき秋

又もたわぬりくくを國とほあへんたはくしとてはくし
具足伝本

はわよ我のたはくしとてはくしとてはくしとてはくし
中巻 見伝

あはく我のいひまよとてはくしとてはくしとてはくし
随念中法

かう鳥となりてあはくしとてはくしとてはくしとてはくし
中巻 不返

しと我とみよとてはくしとてはくしとてはくしとてはくし
い之法懸

今世はあはくしとてはくしとてはくしとてはくしとてはくし
鏡量身経

秋の霜よはくしとてはくしとてはくしとてはくしとてはくし
秋の霜よはくしとてはくしとてはくしとてはくしとてはくし

河津院經

さきくもはなふ葉そはのわきとなくゆきとさきいそ

三十首和歌

通賢 資直 西人 藤 後日 赤内 府 祐 和

早春寫

資直

長風はらけく雪の花はえにうわいとちすうの夢

赤内府

みづらん花も志す春の月の光よじふうくの夢

朝妻

道賢

うらみのこ同の山は朝妻さうやみねは秋とのこきん

前

日のせり山はるきうふねのうらまよは朝露の

夕梅

資

はるより秋社うね梅の香にゆよの月のえらきうら

あ

夕暮れはかへるうらむ香よ神とせうく梅の風

早春寫

紫

言のりか面の柳露はそひき梅こい春のそうふ

あ

まゆろく梅さあさうとほよみて葉本茂りのまのぬら

見花

資

はるのこはらうらまよは世も花よさうらさあうらうら

あ

まもつとむらよはらすう浪あまはひし今も花よやん

岡部云

紫

と朝さうもすれはさのそねよみさうらまよは時鳥の

前

都のゆくとまよこい一夢のまにりらうねさ秋松しそ

五月の久

資

ゆりもせす晴ぬ日敷も久るのそはうらまよは月あふのそ

前

さうかのみ色そとまうらうら梅くさあ日とさう春あふの

水色雲

雲

雲のあはれ水のひらき水はみそいそひむきめいん

前

下水のみくもくも雲のそくをきくひり雲

資

水はくもく浪の波はきもくもくゆめらあ

前

夕立はけらくみきくくくくみあてくさゆめ

雲

夕立はけらくみきくくくくみあてくさゆめ

前

夕立はけらくみきくくくくみあてくさゆめ

資

夕立はけらくみきくくくくみあてくさゆめ

前

夕立はけらくみきくくくくみあてくさゆめ

雪中序

雲

雪のあはれ雪のあはれ雪のあはれ雪のあはれ

前

雪のあはれ雪のあはれ雪のあはれ雪のあはれ

資

雪のあはれ雪のあはれ雪のあはれ雪のあはれ

前

雪のあはれ雪のあはれ雪のあはれ雪のあはれ

雲

雪のあはれ雪のあはれ雪のあはれ雪のあはれ

前

雪のあはれ雪のあはれ雪のあはれ雪のあはれ

資

雪のあはれ雪のあはれ雪のあはれ雪のあはれ

前

雪のあはれ雪のあはれ雪のあはれ雪のあはれ

獨見花

風よきて半くわらわぬ花の心はついで月日ははなれぬ
風よ花

惜春

あらしめくわらわぬ花の心はついで月日ははなれぬ
惜春

秋

あらしめくわらわぬ花の心はついで月日ははなれぬ
秋

雨後

あらしめくわらわぬ花の心はついで月日ははなれぬ
雨後

樹陰

あらしめくわらわぬ花の心はついで月日ははなれぬ
樹陰

秋風

あらしめくわらわぬ花の心はついで月日ははなれぬ
秋風

山月

あらしめくわらわぬ花の心はついで月日ははなれぬ
山月

月前

あらしめくわらわぬ花の心はついで月日ははなれぬ
月前

裁菊

あらしめくわらわぬ花の心はついで月日ははなれぬ
裁菊

梅窓

あらしめくわらわぬ花の心はついで月日ははなれぬ
梅窓

冬曉

あらしめくわらわぬ花の心はついで月日ははなれぬ
冬曉

露

あらしめくわらわぬ花の心はついで月日ははなれぬ
露

月夜

あらしめくわらわぬ花の心はついで月日ははなれぬ
月夜

寄

あらしめくわらわぬ花の心はついで月日ははなれぬ
寄

寄

あらしめくわらわぬ花の心はついで月日ははなれぬ
寄

海路

浪風ハ何れもかき 春の初めは 舟のうきと 誰よりよみ人

釋迦

寒や^声 春のうきと 波岸の舟も 若くも 舟を 舟に 波

佳名法樂三百六十首

初相後已文で詠草

早春海

海風よまき 初春の初めは 舟のうきと 誰よりよみ人

海を 春

初春の初めは 舟のうきと 誰よりよみ人

舟のうきと 誰よりよみ人

開花

山風の吹くや 舟のうきと 誰よりよみ人

舟のうきと 誰よりよみ人

夕歌

風とまらぬといふ 舟のうきと 誰よりよみ人

暮春

舟のうきと 誰よりよみ人

舟のうきと 誰よりよみ人

夏夜

舟のうきと 誰よりよみ人

舟のうきと 誰よりよみ人

樹陰 細涼

舟のうきと 誰よりよみ人

舟のうきと 誰よりよみ人

女郎 花麻風

舟のうきと 誰よりよみ人

舟のうきと 誰よりよみ人

海邊 鹿

舟のうきと 誰よりよみ人

池月

やうらのあし入らうとて花の月とあつてはあつたのつき
池ののりなふとて花の月とあつたのつき

松岡の楽

わきののわわのりあつてはあつたのつき
下の葉あつてはあつたのつき

山雲

かきげりりりの山らあつてはあつたのつき
あつたのつき

秋嵐言

又うねりりりの光もあつたのつき
けよも言わらうらうら

実の剛意

らうらうらあつたのつき
そいつらあつたのつき

夢の子もあつた

あつたのつき
あつたのつき

夢の扇意

あつたのつき
あつたのつき

嶺椿

花のまよひのわきあつたのつき
うらうらあつたのつき

田家秋

ほよあつたのつき
あつたのつき

布留

あつたのつき

壽那祝

神のまよひのわきあつたのつき

永正十二年同二月廿八日於石山成就院詠作 後日前内府詠曰

山上霞

乙條

朝日さすむ入江の浪のうよ秋つを初ていけりかみ人

實隆

夕焼く日入江のしれ柳はゆふもすむ浪のうよ

野鷲

子海

雪のまじりゆく染れゆく花の天とあはれゆく時色は常

實

鶯のみやこれ野色色の春のまよ花のいとよとれとわく

山猿雪

乙

夕雪ん清ぬ物々春の色よすあんなささひくの山風

実

雪氷をひりぬる根の春のめいいよ打出志の浦波

梅薰神

子

神のうよの母うよせ白りえのうらうらひむじのまの風

実

いとまじりぬ白のうよは梅を立より神をまじりてせ

春曉月

乙

うき祇の枕あついにまの秋のまも短くあつる月影

実

果の天とて一羽ののまは月すまはとてとあまのうら

遠尋花

子

いとまじりぬるを咲花のまはひよあまのまの山か

実

ゆとそののうらうらと花もたわひい花よまはむかしの花

花盛用

うらうらいつくの色々をまふよりまはらん花盛うら

実

花よいよよの紫をあらまきりことあつるを思ふ心のうて

花は風

子

まのまもあつるあつる花の風花のうらわあつるあ

実

しんひのうしてとみよ春のむらゝとを風のつらりせき

思雄

と

朝露の露のうすの夢へやと袖さじり花の――君

実

うら衣ささく鳴る鳥のこゝろの露くさくは書かへらとむら

暮春藤

き

うらあさ倉敷の志まひの春日とあはれはまきの善の別物

実

とあつたうんまじりぬ一行まのうらまは本は入宿の春浪

不達意

公

草花うらあはれゆつりまもあひら中へ夏と絶きり

実

とまうらなむひそかきとまよひの葉まをいそむたそとあ

初意

き

みも縄あさうらまののののののののののののののののの

実

むらり事と言ふ歌よくらむらハ日水わハくき一森のまあ縄

契待意

と

あつとあはれは夕のあつとあつとあつとあつとあつとあつと

実

らさうねいさうりし秋のうらうらうらうらうらうらうらうら

達意

き

あつとあつとあつとあつとあつとあつとあつとあつとあつと

実

とねいさうあねよそ志る事ハまにそ命にうらわ物と

惜別意

と

いよせん身ハはらひあつとあつとあつとあつとあつとあつと

実

又そとハあつとあつとあつとあつとあつとあつとあつとあつと

立者意

き

あつとあつとあつとあつとあつとあつとあつとあつとあつと

実

えふしあつてらとていそふせはあつしをいふわ若らあつよ
根云

世のいほはあつしをいふわ若らあつよ
実

くろくしきり力のうらみとけりて人をうみまはる
開路鶏
実

わきとく花の先に開の戸はあつしをいふわ若らあつよ
実

えうくあせ今故よめく鳥はあつしをいふわ若らあつよ
浦松
実

志美の浦松は一本れまはるあつしをいふわ若らあつよ
実

かつらこのねわあつしをいふわ若らあつよ
実

はみはせをみりくあつしをいふわ若らあつよ
実

百あや代にばあつしをいふわ若らあつよ
実

代世賀喜

湖霞

肯拍

うらみとけりて白浪海風と霞よれ守志美のかつ時

竹裏鶯

實際

あつしをいふわ若らあつしをいふわ若らあつよ

梅苗袖

肯一

あつしをいふわ若らあつしをいふわ若らあつよ

水色柳

実一

あつしをいふわ若らあつしをいふわ若らあつよ

帚尾

肯一

あつしをいふわ若らあつしをいふわ若らあつよ

春鳥

実一

あつしをいふわ若らあつしをいふわ若らあつよ

我花

肯一

書入

十一首

春日

春のうららもなつかしうしてゆき鳥鳴け何風さして月をこぼし

春月

春のうららもなつかしうしてゆき鳥鳴け何風さして月をこぼし

春山

春のうららもなつかしうしてゆき鳥鳴け何風さして月をこぼし

春野

春のうららもなつかしうしてゆき鳥鳴け何風さして月をこぼし

春海

春のうららもなつかしうしてゆき鳥鳴け何風さして月をこぼし

春木

春のうららもなつかしうしてゆき鳥鳴け何風さして月をこぼし

春草

春のうららもなつかしうしてゆき鳥鳴け何風さして月をこぼし

春獣

春のうららもなつかしうしてゆき鳥鳴け何風さして月をこぼし

春虫

春のうららもなつかしうしてゆき鳥鳴け何風さして月をこぼし

春滝

春のうららもなつかしうしてゆき鳥鳴け何風さして月をこぼし

春灯

春のうららもなつかしうしてゆき鳥鳴け何風さして月をこぼし

春魚

春のうららもなつかしうしてゆき鳥鳴け何風さして月をこぼし

春意

春のうららもなつかしうしてゆき鳥鳴け何風さして月をこぼし

春友

春のうららもなつかしうしてゆき鳥鳴け何風さして月をこぼし

春祝

秋の夜は春の日の如きのうららかなるにや

十五首

秋風

民の草のつらさを海にわたるとし吹みける風はつらき

秋露

槿の花は雨と半はあま風はほしくさね草のうらむ

秋月

かきこひのひらく人おとらぬ中よとらぬ秋の夜の月

秋鳥

ひるべしひるべしと方角をみて月とわすれ鶴のうら

秋花

秋の花はゆきかきぬ夜の文とくすくすり白く白草

秋鳥

あきこひの夜とくきと初りの夜わすれの夜くらむ

秋虫

あきこひの夜とくきと初りの夜わすれの夜くらむ

秋麻

あきこひの夜とくきと初りの夜わすれの夜くらむ

秋水

らるるすくすく水の葉の文とくすくすり白く白草

秋露

あきこひの夜とくきと初りの夜わすれの夜くらむ

秋花

あきこひの夜とくきと初りの夜わすれの夜くらむ

秋鳥

あきこひの夜とくきと初りの夜わすれの夜くらむ

秋虫

あきこひの夜とくきと初りの夜わすれの夜くらむ

秋鶴

あきこひの夜とくきと初りの夜わすれの夜くらむ

秋鶴

中世の人のうたもつゝあやみ世の人のうたもつゝあやみ

詠十五首和歌

感花

古今胡蝶のいろのきるまを舞もあはれと花よ清く

歌花

花よいろは清くひてひてはひてひてはひてひてはひて

胡蝶

あはれも花もあはれもあはれもあはれもあはれもあはれも

歌花

笑らうとみるもあはれもあはれもあはれもあはれもあはれも

歌花

梅の花よ清くひてひてはひてひてはひてひてはひて

松花

あはれも世のあはれもあはれもあはれもあはれもあはれも

歌花

あはれも世のあはれもあはれもあはれもあはれもあはれも

河花

あはれも世のあはれもあはれもあはれもあはれもあはれも

胡蝶

あはれも世のあはれもあはれもあはれもあはれもあはれも

浦花

あはれも世のあはれもあはれもあはれもあはれもあはれも

花電

あはれも世のあはれもあはれもあはれもあはれもあはれも

花浪

あはれも世のあはれもあはれもあはれもあはれもあはれも

花綿

あはれも世のあはれもあはれもあはれもあはれもあはれも

花電

あはれも世のあはれもあはれもあはれもあはれもあはれも

惜花

おしとそちい世中さ海しおのいへて花うか

北野奉納十二首和歌 明應九年正月 宗祇八十華

鹿

初来もさういおらん鹿の半嶋をくかまじ春うれ

若菜

つじやののさくれもあまの(の雪はさの氷袖うぬるも

花

かふるもさ春うもあふ藤より花雪のりるこそさのい

郭云

おのほのほれまおのまをのう名のましてさうぬあま

又月夜

こころいほほほあまのあまのあまのあまのあまのあまの

他原

まのまのまのまのまのまのまのまのまのまのまのまの

秋野

おのあつあつとまのまのまのまのまのまのまのまのまの

月

いとおろとあまのまのまのまのまのまのまのまのまの

お葉

まのまのまのまのまのまのまのまのまのまのまのまの

白鳥

まのまのまのまのまのまのまのまのまのまのまのまの

氷

あまのまのまのまのまのまのまのまのまのまのまのまの

雪

まのまのまのまのまのまのまのまのまのまのまのまの

十首春日祭法系 永正十一年五月十一日

若草

春日祭のまのまのまのまのまのまのまのまのまのまのまの

あ花

らるとみくまうも人のあつねらねたもあつてぬきり

昌蒲

吹くはあつちも花より草れとては紫の影のつまわり

郭公

かゝ夜あつ月きててこゑとてはほのうらなりの山ほくき

浦月

きとあつはとくねまては月のほく浦のつま

山嵐

山嵐をあつてはとくねまては月のほく浦のつま

曉雪

月のつれもあつてはとくねまては月のほく浦のつま

水鳥

ちとあつてはとくねまては月のほく浦のつま

神祇

あつてはとくねまては月のほく浦のつま

庭松

朽ねもくわ老もれ宿の松たひきりて千世のつれ

詠十首和歌常担三回忌天文二六八入道相國贈答在入歌

如是相

あつてはとくねまては月のほく浦のつま

性

はあつてはとくねまては月のほく浦のつま

禪

ちとあつてはとくねまては月のほく浦のつま

力

あつてはとくねまては月のほく浦のつま

作

らと草のま紫と紫のいねもあつては月のほく浦のつま

因

あつてはとくねまては月のほく浦のつま

縁

やいふれかきし一羽と草の原名跡とあひつらりも
こゝ果

あゝ風さすわきのこゝろに物あつた行くこの稲とあはれ
こゝ報

いつうらもの夕暮と行ひたれうそを飛くく入れ障
こゝ年未元竟

何事もほと忌ありしと志すゆら法のたまたまありし
もろや金うたれとも夏のふらふらあまの年の幸は
り

十首 永正十三四 十八廿十三カ

重和部云

ゆ人のあゝもこれお井いとはいひもろん
濱五月雨

月多ハヤとひしやらけのたきいぬり志しれもまね

船他涼

夕波の月まらりていりともさの志りすしこあれ風

杜友板

今ハカようと世のちりいれいれ何れ風さすの毒のト風

斐志

あらしさや一昔のせらるをいさ海のあゝぬらみもりつれ

顯志

なまこいさ名元川は本のなまゆきよんか世もや

隠志

わすかりのなれ秋もきてこの葉かえを飛よここん

洞書

谷うみりのひりとりねのなれいりさ露は年の一わん

晚鐘

海らうのこれまいてとみそあれ夕の清よ松うら山

速懐

きくら福も今いれしとむもものもをわらふとあきん

十首明六廿二肖柏トあ吟二十首内板書く水三歌社法系

竹裏堂

廿十首重抄

色々ねおとらうらうらひのさびしき風よまほそこのくはら

水邊柳

ちりるをわやいりく夕潮は風とよまき柳のうき

春鳥

花鳥のわらまきと昔は春の元はまきまわぬの夕暮宿

折花

花のこす花の風の枝とみよらとみゆり神もこそあま

松上春

うじらさ風のやりの松をこそ昔のじつきとわうら散浪

不逢意

つらなれらうらうら海きよらなまらうらまきうらうら

後朝意

月草の心をみよもわさ露のうらわみと神のいとさか

曉灯

あけの月ひまののきれうらまらわらうらまらうらまの灯

旅行な

いあしてこころかよみわこころをれまよのこまらうらあか

神祇

あてともあわらねとちたみえお祓ともうらうら露のこのん

十首大樹依作詠進し

又兼

あまれらうらうらひらうら夕露のゆらさそらうら一感とす

御下菊

うらみかこころまよとまのじつきに露もすくやまら

河菊

あいのうらまも地まきしは昔は水のひまらうらうら白菊

岡庭菊

紅紫ともしる菊をささひらと神もすうらの庭の白菊

若下菊花

みらぬの名よのこころは花もあ都の枝の志をまら

水色菊

わさびの白菊水色の花よりきて秋のよりきり
草花黄枕

さくらよわりの花よりきて秋のよりきり
草交落

由也のうらにさひく名花と白菊の種をくみて白きく
旅行草

旅衣作りやとりとり鳴き草の花さき町あつた
寄菊祝

いく千世うきうきわんにとわくくえん菊のうきうき
と

永正九年正月 前内府 試筆下首

早春霞

今朝みよしのさきく梅のうら衣よりきてさきく

静見花

みづうらに花さきくさきくさきくさきくさきくさきく

野郭公

山吹海きの野中の森の夕月をわたりてめく野郭公

海邊月

朝雪の月のあつたさきくさきくさきくさきくさきく

山紅葉

明麻の夕月のあつたさきくさきくさきくさきくさきく

閑路雪

富士の移みさきくさきくさきくさきくさきくさきく

忠待恋

梅のうらにさきくさきくさきくさきくさきくさきく

稀逢恋

かまゆりの花よりきてさきくさきくさきくさきくさきく

読宿草

鳴きくさきくさきくさきくさきくさきくさきくさきく

社以祝

春日山あつたさきくさきくさきくさきくさきくさきく

たのしみ道里詠十首又前内和答

山上鹿

道里

かきつりきり 祢のよもゆき晴のきり 卯山の霧うらぬらん
梅のやみ 冬こそあり 祢のよもゆき 晴のきり 卯山の霧うらぬらん

餘寒月

雪あふまき 雪あふまき 雪あふまき 雪あふまき 雪あふまき
山風や子 雪あふまき 雪あふまき 雪あふまき 雪あふまき

梅薫風

梅の香や 梅の香や 梅の香や 梅の香や 梅の香や
梅の香や 梅の香や 梅の香や 梅の香や 梅の香や

帰序曲

花よら 夕のやみ 山入 瑞ふい 瑞ふい 瑞ふい 瑞ふい
夕のやみ 山入 瑞ふい 瑞ふい 瑞ふい 瑞ふい

山家花

花や 山家花 山家花 山家花 山家花 山家花
山家花 山家花 山家花 山家花 山家花

思久恋

思久恋 思久恋 思久恋 思久恋 思久恋 思久恋
思久恋 思久恋 思久恋 思久恋 思久恋

不逢恋

不逢恋 不逢恋 不逢恋 不逢恋 不逢恋 不逢恋
不逢恋 不逢恋 不逢恋 不逢恋 不逢恋

羽眺や

羽眺や 羽眺や 羽眺や 羽眺や 羽眺や 羽眺や
羽眺や 羽眺や 羽眺や 羽眺や 羽眺や

籠宿夜

籠宿夜 籠宿夜 籠宿夜 籠宿夜 籠宿夜 籠宿夜
籠宿夜 籠宿夜 籠宿夜 籠宿夜 籠宿夜

独途懐

独途懐 独途懐 独途懐 独途懐 独途懐 独途懐
独途懐 独途懐 独途懐 独途懐 独途懐

永正十年二月一日 公條一試筆前内府初和之

春の光

公條

春風の吹やみさうの光れ多むよりけさのあけやこの京

前内府

あつらとも今朝やうらさき鳥う鳴あつまうりつる春の光よ

遠山夜宿

清きい雪の光やまうらん鳴るうすくすむ山のこ

いこ星はさかあきらめるるや日影とのこすれぬのこ

水色初雪

山は清きあぬ雪れ下あに積まうさあけしう浪

とこさびて水け河れきうれうよこあきとつそね松の白雪

梅近園賞

野色らさきあ居うぬも雪梅よふくそあうらひすのそ

朝あつとのう色やうの賞れあつとやうれ行の梅う香

柳と花梅

春風の吹やみさうの光れ多むよりけさのあけやこの京

まきそいあそ花のあつとあつとあつとあつとあつとあつと

母尋梅意

人いさ作いふまきそ思ひをよりあをえりそや梅をうん

あきつとに親とあれこまうせよあきつとあきつとあきつと

人傳伝意

はつはつ人もあつとあつとあつとあつとあつとあつとあつと

あつとあつとあつとあつとあつとあつとあつとあつとあつと

山家客来

あつとあつとあつとあつとあつとあつとあつとあつとあつと

飛龍音情

あつとあつとあつとあつとあつとあつとあつとあつとあつと

あつとあつとあつとあつとあつとあつとあつとあつとあつと

赤鶴立列

あつとあつとあつとあつとあつとあつとあつとあつとあつと

あつとあつとあつとあつとあつとあつとあつとあつとあつと

伍拾一首

海色歌

霞をわきまきりしうらわしの東入日とて海へわたりし浪

松花を

うみわき花とてうらわしの松花の風のやうにうらわしのうら

暁時鳥

可鳥わきまの月をわきまきりしうらわしの松花の風のやうにうらわしのうら

江戸月

みづうらをわきまきりしうらわしの松花の風のやうにうらわしのうら

野介飛

衣をわきまきりしうらわしの松花の風のやうにうらわしのうら

夕子鳥

うらわしの松花とてうらわしの松花の風のやうにうらわしのうら

忠久恋

今をわきまきりしうらわしの松花の風のやうにうらわしのうら

恨絶恋

うらわしの松花とてうらわしの松花の風のやうにうらわしのうら

秋恋懐

昔の事老の福をわきまきりしうらわしの松花の風のやうにうらわしのうら

社及祝

秋をわきまきりしうらわしの松花の風のやうにうらわしのうら

八景

山市晴嵐

山名の昔のよまをわきまきりしうらわしの松花の風のやうにうらわしのうら

漁村夕照

わきまきりしうらわしの松花の風のやうにうらわしのうら

畑寺晚鐘

うらわしの松花とてうらわしの松花の風のやうにうらわしのうら

深瀬秋風

竹の葉をわきまきりしうらわしの松花の風のやうにうらわしのうら

遠浦帰帆

とあるにも傳へる小舟は小舟程のさうとさうの方とて
洞庭秋月

月をみればのら浪用とて砂のり星あき風をまへ
平砂斎居

程あるいふん波のみさういふなふり居もさうりとも
天暮書

い旅もさう入江のねれむいざどきもい旅のうと書の

山市晴嵐

高岸とらとさうりなるのいよれまへ入とねり居もさう
後村夕照

夕暮りもさういふさう一村の入口よりうねりさういふのさ
相寺曉鐘

世帯とせとさういふいふは波あつたのりさういふのさ
湊瀬秋夕

かし花とまのさういふさういふとさういふのさ
遠浦帰帆

折つても程とらさういふさういふさういふのさ
洞庭秋月

いふのさいふいふとさういふさういふのさ
平砂斎居

行つてもさういふいふさういふさういふのさ
天暮書

あつてもさういふいふさういふさういふのさ
七首 天文二七夕 日向寺

い夕月れうさういふいふさういふのさ
七夕月

そあつてもさういふいふさういふのさ
七夕何

夜ふけの空をいづは七夕の中よあるての天の川に渡

七夕草

百華の花よひよあけを命のいのちのあはれを

七夕鳥

七夕の鳥もあはれのらさうあつ鳥の翅とあはれ

七夕扇

あはれいづれあはれあはれあはれあはれあはれあはれ

七夕祝

あはれ代の教よううん天^地た^地とあはれあはれあはれあはれ

七夕送秋

あはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれ

り秋萩露

あはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれ

初序連中

あはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれ

秋夕傷心

あはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれ

新月詠客

あはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれ

山家栲衣

あはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれ

海邊お染

あはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれ

天正寺お首

春秋

あはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれ

夏曉

あはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれ

秋朝

五月の夜もあきれくちりの香よ月やうらなふなほ

夕の影のあついろも松竹のうらなふ香の文外
天女

ほてゝきほをねほの水はこれる流川のまよひあはれ

永正十一年十二月の龍山和尚七廻追善

馬

ちかすきいろとくはのあせとそまてふねはせうらうら

幻
幻

あまきしほをねほのあせとそまてふねはせうらうら

泡

あまきしほをねほのあせとそまてふねはせうらうら

新

いづらとせまねあゝの花の梅月のうらなふ神ねーま

雲

いづらとせまねあゝの花の梅月のうらなふ神ねーま

電

いづらとせまねあゝの花の梅月のうらなふ神ねーま

定隆致
聽雪

卷十

8013

